

(様式 17)

薬学教育評価

評価報告書

評価対象大学名 富山大学薬学部

(本評価実施年度) 2019 年度

(作成日) 2020 年 2 月 27 日

一般社団法人 薬学教育評価機構

I. 総合判定の結果

富山大学薬学部薬学科（6年制薬学教育プログラム）は、薬学教育評価機構が定める「薬学教育評価 評価基準」に適合していると認定する。

認定の期間は2027年3月31日までとする。

II. 総評

富山大学薬学部は6年制薬学科と4年制創薬科学科の2学科を設置している。薬学科の教育研究上の目的（人材養成の目的）は「薬学科では、広い視野と高度な職能を持ち、和漢薬を含めた広範な東西医療分野で活躍する薬剤師などを育成することを目的とする」と「富山大学薬学部規則」に定められている。これに基づいて設定したカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）に沿ってカリキュラムを構築している。

1年次は主に五福キャンパスで教養教育が、2～6年次は杉谷キャンパスで専門教育が行われている。医療人としての教育科目は1年次から高学年次に開講されている。薬学専門教育では、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した教育が行われており、学部の人材養成の目的に沿って、和漢薬に特化したカリキュラムである和漢薬コースが平成30年度から開設され、東洋医学と西洋医学を組み合わせ、より有効性かつ安全性の高い治療法を考案できる医療人を養成することを目指している。

実務実習は富山県内の薬局および富山県内、県外の病院において行われている。

「卒業研究」は4～6年次に行われている。4年次2月に卒業研究中間発表会（ポスター発表）が、6年次11月初旬に卒業研究発表会（口頭発表）が行われ、6年次10月末に卒業論文を提出している。

入学者の受入は、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づいて、一般入試（前期日程、後期日程）および特別入試（推薦入試、帰国生徒入試）で入学者の選抜が行われており、入学者数と入学定員との関係は適正である。

各科目の成績は、100点を満点とし、秀（90点以上）、優（80点以上90点未満）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）および不可（60点未満）の5段階で評価している。進級判定は、各学年の進級基準に基づき、薬学部教務委員会にて確認した後、薬学部教授会の審議を経て行っている。各学年の進級率はおおむね9割以上である。学士課程の修了認定は、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を策定し、学則に定めた卒業要件に基づいて行われている。

富山大学薬学部はクラス担任制度を設け学生の相談対応を行っている他、経済的支援、健康支援、ハラスメント対策、障がいをもつ学生への配慮、キャリア支援が適切に行われている。また、学生には「学生教育研究災害傷害保険」、「学研災付帯賠償責任保険」に加入させている。

薬学部薬学科の専任教員数は38名（実務家教員7名を含む）であり、大学設置基準に定められた教員数を満たしている。薬学科教員の採用は適切に実施されており、薬学科教員は研究活動を活発に行い、教育研究能力の維持に努め、教育・研究業績を大学のホームページで公開している。薬学科教員のFD（Faculty Development）活動への出席率が高い。

薬学部の施設・設備は6年制薬学教育に必要な基準を満たし、バリアフリーの講義室、十分な広さの実習施設や少人数グループ討議用の小教室があるなど適切である。卒業研究に関する設備も十分で、図書館も整備されている。

地域連携活動では、富山県内の薬剤師や地域住民を対象とした取り組みに薬学科教員が参画している。

平成29年に薬学部自己点検・評価委員会を設置し、自己点検・評価に取り組む体制が構築されている。

以上のように、富山大学薬学部の6年制薬学教育プログラムは、本機構の評価基準におおむね適合していると判断される。しかし、以下のような問題点があり、改善が必要である。

- (1) ヒューマニズム教育・医療倫理教育が体系的に行われていないので、改善が必要である。
- (2) ヒューマニズム教育・医療倫理教育において、総合的な目標達成度を評価するための指標を設定し、それに基づいて評価することが必要である。
- (3) コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための教育において、総合的な目標達成度を評価するための指標を設定し、それに基づいて評価することが必要である。
- (4) 中間試験、期末試験以外に、成績が60点未満の学生を対象にした、学則に規定がない試験が教員の裁量で行われているので、改善が必要である。
- (5) 薬学部自己点検・評価委員会が主体性をもって、6年制薬学教育プログラムを定期的に自己点検・評価し、これを継続してPDCAサイクルを機能させることが必要である。

富山大学薬学部には、今回の評価における提言に適切に対応することで、6年制薬学教育を推進することを期待する。

Ⅲ. 『中項目』ごとの概評

1 教育研究上の目的

本中項目は、適合水準に達している。

富山大学は「地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行うこと」、「人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献すること」、「科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与すること」を理念として掲げている。この理念の具現化のため、薬学科の教育研究上の目的は策定され、「富山大学薬学部規則」第1条の2に「人材養成等の目的」として記載されている。薬学科の教育研究上の目的は、併設されている創薬科学科と別に定められている。「教育研究上の目的」としている「富山大学薬学部規則」第1条の2は「人材養成等の目的」として策定されているため、研究に相当する記述はないが、大学の理念には研究に関する内容が含まれている。

薬学科の人材養成等の目的は「薬学科では、広い視野と高度な職能を持ち、和漢薬を含めた広範な東西医療分野で活躍する薬剤師などを育成することを目的とする」と定められており、薬学部の人材養成等の目的「薬学部では薬の理解を通じて、人類の健康、福祉、衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる人材を育成することを目的とする」と合わせて、医療を取り巻く環境や薬剤師に対する社会のニーズを反映しているが、大学は、さらに、日本薬剤師会の「薬剤師の将来ビジョン」および厚生労働省の「患者のための薬局ビジョン」の求めるところをより明確に反映させるために、薬学科の人材養成等の目的を「薬学科では、広い視野と高度な知識と研究力を持ち、和漢薬を含めた広範な東西医療分野で活躍し、医療に関する社会的ニーズに対応できる薬剤師などを育成することを目的とする」に改定することを検討している。

教育研究上の目的（人材養成等の目的）は教職員にはFDにより周知され、学生には新入生ガイダンス時に周知されている。また、薬学科の教育研究上の目的（人材養成等の目的）は、ホームページにより広く社会へ公開されている。

教育研究上の目的の検証については、薬学部自己点検・評価委員会や薬学部教授会において、社会情勢の変化、地域社会の要望の変化、薬学部の現状などを検討し、それに基づき討

議を行うことが、薬学部自己点検・評価委員会内規第2条に定められている。

2 カリキュラム編成

本中項目は、適合水準に達している。

富山大学薬学部薬学科では、平成28年度の富山大学全学部共通の3つのポリシー改定に伴い、平成29年度以前入学者のカリキュラム・ポリシーが、富山大学の理念ならびに薬学部薬学科の教育研究上の目的（人材養成等の目的）に沿った形で改定され（改訂版カリキュラム・ポリシー）、平成30年度より適用されている。

<教育課程編成方針>（カリキュラム・ポリシー）

薬学科では、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる5つの能力を学修するため、教養教育科目及び専門教育科目を体系的に編成する。

<教育課程実施方針>

- ・6年間の学修を通じて、薬剤師として必要な教養と基礎科学、基礎薬学及び医療薬学の多岐にわたる専門分野での学識を深めるためのカリキュラムを編成する。
- ・1年次においては、教養教育の卒業要件単位を修得するための講義・実習・実技科目を主体とし、専門への導入教育も並行して実施する。
- ・2年次においては、物理、化学、生物系の基礎科学を主とした講義科目と物理、化学系の基礎薬学実習を実施する。
- ・3年次においては、生物、薬剤、薬理、衛生、医療系分野を主とした講義科目と基礎薬学実習、及び総合薬学演習を実施する。
- ・4年次においては、医療系分野の講義科目と薬学共用試験対策として臨床前実習を実施する。また、卒業研究を開始する。
- ・5年次においては、薬局・病院における臨床実務実習を実施する。また、卒業研究を継続する。
- ・6年次においては、卒業研究を主として実施すると共に、基礎薬科学の反復教育とアドバンスト教育を実施する。

<学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法>

●幅広い知識

【学修内容】幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に基づいた判断ができる人材を育成するため、教養教育において人文科学・社会科学（語学を含む）の講義科目を編成する。

また、薬学専門教育への橋渡しとして、自然科学・生命健康科学系の理系基盤教育を実施する。

【学修方法】講義科目ではアクティブラーニングの導入し、理解度の向上を図る。語学では少人数授業を、また一部の理系基盤教育では理解度に応じたクラス編成を行い、学修効果を高める。

【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により評価する。

●専門的学識

【学修内容】実践的な薬学を学ぶために必要な、物理、化学、生物系の基礎科学教育を重点的に実施する。その学修成果を土台とし、薬剤、薬理、衛生、医療系講義を体系的に編成する。各専門分野の実習では、体験に基づくより深い学修と実験技術を修得する。また、薬剤師業務に必要な技能を修得するために、病院及び薬局において臨床実務実習を実施する。

【学修方法】通常講義科目では視聴覚教材を随時使用し、理解度の向上を図る。また、授業外学修を推進し、自ら学ぶ力を養う。

【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により評価する。

●問題発見・解決力

【学修内容】学修した専門知識を最大限活用して、医薬品に関する調査・分析を行う総合薬学演習を実施する。また、卒業研究では、各研究室において学生ごとに課題を設定し、その解決に向けて研究活動を行う。得られた成果の発表会を行い、効果的なプレゼンテーションや質疑応答に必要な技術・能力を修得する。

【学修方法】研究室に所属し、教員の指導の下、学生が主体的に調査・分析・実験等の研究を行う。

【学修成果の評価方法】作成した卒業論文と、発表会における発表と質疑応答を総合的に評価する。

●社会貢献力

【学修内容】

薬学概論では、初年次教育として研究室訪問や薬局・病院見学を行う。

医療学入門において、早期臨床体験の一環として介護体験実習及び心肺蘇生体験を実施する。

基礎薬学実習及び臨床実務実習では、グループでの活動を通して責任感や協調性など医療人として必要な社会性を修得する。また、臨床実務実習を通じて、医療現場における

薬剤師の果たす役割を学修する。

【学修方法】通常の講義や各種実習、学外での体験学修、及び臨床実務実習を行う。【学修成果の評価方法】レポートや実習評価表により評価する。

●コミュニケーション能力

【学修内容】講義や実習での同級生とのコミュニケーションを通して、友人や仲間と豊かな人間関係を構築しながら、学識向上を図る。また、各研究室での研究活動や臨床実務実習を通して、指導教員、他の学生（大学院生や留学生を含む）及び指導薬剤師との協力関係や信頼関係を深め、業務遂行上必要なコミュニケーション能力を向上させる。

【学修方法】アクティブラーニング形式の講義、実習、総合薬学演習におけるグループワーク、研究室での研究活動、及び臨床実務実習を行う。

【学修成果の評価方法】試験又は発表会を実施し、その成果を総合的に評価する。

カリキュラム・ポリシーの改定は、教務委員会で原案が作成され、教授会で審議・決定する体制となっている。

薬学科のカリキュラム・ポリシーは「医学部・薬学部履修の手引き」に掲載し、学生に入学時に配付している。さらに、新入生オリエンテーションや年度初めのガイダンス（2年次生以降）における履修指導時に、カリキュラム・マップを配付した上でその内容を口頭で説明し、周知している（基礎資料4）。教員には毎年度初めに「医学部・薬学部履修の手引き」を配付し、薬学部教授会において周知を図っている。また、薬学部および和漢医薬学総合研究所の全教員対象の薬学部FDにおいても資料を配付して周知している。カリキュラム・ポリシーは富山大学薬学部ホームページで公開されている。

薬学科ではカリキュラム・ポリシーに基づいた薬学教育カリキュラムが編成されている。富山大学の方針として、平成30年度から教養教育を五福キャンパスに一元化することになり、1年次に教養教育の卒業要件単位をすべて習得できるカリキュラムへ変更した。これに伴い、1年次後期に開講していた専門科目を2年次に移行するなどして、2年次から専門教育に特化することで学習意欲の向上を図っている。

カリキュラムの体系性とディプロマ・ポリシーの到達目標が明示されたカリキュラム・マップ（基礎資料4）が作成され、入学時および年度初めのガイダンスで学生に配付されている。

平成30年度入学生より、薬学科の教育研究上の目的にある「和漢薬を含めた広範な東西医療分野で活躍する薬剤師などを育成する」を具現化するためのカリキュラムを発展させ、

薬学部に卓越薬学教育プログラム「和漢薬コース」（2年次後期から開始）を設置した。

薬学共用試験対策の正規科目はなく、正規科目外の特別授業も行っていない。国家試験の対策としても6年次の「卒業研究」終了後の予備校講習（正規科目外）があるのみである。したがって、薬学共用試験、国家試験受験準備教育の過度な偏重はない。

カリキュラムの構築、変更については、教務委員会が原案を作成、教授会で審議・決定とする体制となっている。

3 医療人教育の基本的内容

本中項目は、おおむね適合水準に達しているが、ヒューマニズム教育・医療倫理教育、コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための教育に懸念される点が認められる。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育に対応する科目として、「薬学概論」（1年次前期、1単位）、「医療学入門」（1年次前期、1単位）、「医療薬剤学」（3年次後期、2単位）、「総合薬学演習」（3年次後期、1単位）、「薬事衛生法規」（4年次前期、2単位）があり、1、3、4年次に配置されているが、2年次にはヒューマニズム教育・医療倫理教育に対応する科目は配置されていない。また、選択科目として、「臨床倫理学」（4年次前期、選択1単位）、「臨床薬物動態学」（6年次前期、選択2単位）、自由科目として「海外薬学演習Ⅰ、Ⅱ」（通年、2単位）が配置されているものの、履修者数は「臨床倫理学」6名、「海外薬学演習」（旧カリキュラム科目名）1名と極めて少ない（基礎資料1）。また、「臨床薬物動態学」の履修者は20名であるが、シラバス、授業資料および成果物からは、この科目でヒューマニズム教育・医療倫理教育が行われているとは判断できない。したがって、医療人として生命に関わる薬学専門家に相応しい行動を身につけるためのヒューマニズム教育・医療倫理教育が体系的に行われているとは言い難い。

薬剤師としての倫理観、使命感、職業観を醸成し、患者等との信頼関係を築くための教育として、4年次までに開講されている必修科目「薬学概論」、「医療学入門」、「医療薬剤学」、「総合薬学演習」、「薬事衛生法規」においては専門知識を有する非常勤講師による講義、薬局・病院施設・高齢者医療施設の見学や少人数グループ討議（SGD：Small Group Discussion）などの学習方法が取り入れられている。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育に関わる各科目のシラバスには、評価項目は記載されているが、これらの科目の目標到達度を評価する指標の設定とそれに基づく評価が行われていないため、改善が必要である。また、ヒューマニズム教育・医療倫理教育の総合的

な目標達成度の評価指標を設定し、それに基づいて評価することが必要である。

大学は医療人教育の基本的内容に関する科目を66単位としており、これは卒業要件単位数（191単位）の5分の1以上（38.2単位）である。しかし、ここに挙げられている科目の中には、それらの講義資料ならびにシラバスに書かれた学修方法と内容から判断して、医療人教育の基本的内容に関する科目として不適当な科目も含まれており、当該項目で詳述するように、特にヒューマニズム教育・医療倫理教育、コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための教育は十分ではない。

見識ある人間としての基礎を築くための教養教育科目として、人文科学系、社会科学系、理系基盤教育系、医療・健康科学系、総合科目系、外国語系、保健体育系および情報処理系の8区分の中から152科目・261単位が履修可能であり、その中で語学教育科目としては36科目・36単位が履修可能である。薬学科の学生は38単位（必修科目12単位、選択科目26単位）を卒業要件単位として修得する。

薬学科の学生が履修可能な人文科学・社会科学・総合科目系の科目数は55科目と多く、社会のニーズに応じた幅広い科目が用意されている。この中で受講生がいた科目は36科目であり、受講生は1～40名と不均一である（基礎資料1-1）。

薬学領域の学習と関連付けて履修できる教養科目として理系基盤教育系科目が17科目用意されている。その中で「物理学実験-B」「化学実験-B」「基礎化学-B」「生命科学Ⅰ-B」「生命科学Ⅱ-B」「生物学実験-B」が1年次の必修科目となっていて、薬学専門教育に接続できるように編成されている。

コミュニケーションに関する基本的能力を身につけるための科目として、1年次には、「医療学入門」（前期、必修、1単位）と「薬学概論」（前期、必修、1単位）が配置されており、医学部学生と合同の新人医療学研修や病院・薬局・高齢者医療施設見学などの機会を通じて、実践的かつ総合的なコミュニケーション能力の涵養等に取り組んでいる。また、個人および集団の意見を整理して発表できる能力を醸成する科目である3年次の「総合薬学演習」、4年次の「病院薬学」では、グループに分かれての調査・討論や病院見学の後に発表会を実施しており、コミュニケーション能力と自己表現能力の涵養が図られている。しかし、大学が聞き手および自分が必要とする情報を把握し、状況を的確に判断できる能力の醸成が図られているとしている科目の中で、2～3年次の実習ならびに英語科目については、シラバスやその実習書、テキストを見る限り、これらの科目で適切な教育が行われているとは言い難い。

大学は「各科目のシラバスに「達成目標」と「成績評価の方法」を記載しており、それ

らに基づいて適切に評価がなされている。」としている。しかし、各科目のシラバスには、コミュニケーション能力および自己表現能力に関する評価方法の記載はないため、適切な評価が行われているとは言い難い。したがって、各科目の目標到達度を評価するための指標の設定ならびにそれに基づく適切な評価が必要である。また、これらの科目の学習成果を総合した目標達成度の指標も定められていない。そのため、これらの指標を設定し、それに基づいて評価することが必要である。

語学教育では、「英語リテラシーⅠ-C」（前期、1単位）と「英語リテラシーⅡ-C」（後期、1単位）が主に「読む」と「書く」の要素を、「英語コミュニケーションⅠ-C」（前期、1単位）と「英語コミュニケーションⅡ-C」（後期、1単位）が主に「聞く」と「話す」の要素を取り入れている。各クラスとも最大20名程度の規模により少人数教育が実施されている（基礎資料1-1, 5）。学生は「英語リテラシーⅠ-C」と「英語リテラシーⅡ-C」の組み合わせから1科目以上、「英語コミュニケーションⅠ-C」と「英語コミュニケーションⅡ-C」との組み合わせから1科目以上を履修することになっている。

また、英語以外の外国語（初修外国語）として、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、ロシア語の5言語の授業科目が開講されている。いずれの言語についても、「読む」「書く」「聞く」の要素を取り入れた「基礎Ⅰ」および「基礎Ⅱ」と、「話す」要素を取り入れた「コミュニケーションⅠ」および「コミュニケーションⅡ」の4科目（各1単位）が開講されており、これらの中から2科目以上を選択履修することとされている。語学科目はいずれも1単位であり、卒業必要単位は6単位である。

医療現場で必要とされる英語を身につける科目として、2年次に「薬学英语Ⅰ」（必修、1単位）、「薬学英语Ⅱ」（必修、1単位）を開講している。しかし、どちらの科目も研究室における科学英語力の醸成とTOEIC演習を主として行っており、医療現場で必要とされる英語に関する内容は少ない。したがって、医療現場で薬剤師に必要とされる語学力を身につけるための教育を行うことが望ましい。

3年次には、研究室仮配属前に「専門英語Ⅰ」（必修、1単位）が、研究室仮配属後に「専門英語Ⅱ」（必修、1単位）が開講され、各研究室における論文等の講読により科学研究に対応できる語学力を身につける教育を主に行っている。しかし、講読に使用されていた論文の内容が医療に結びつかない分野の研究室もあり、医療の進歩・変革に対応するための語学学習とは言い難い。

語学教育は、1年次に「読む」「書く」「聞く」「話す」という基本的な要素を学び、2年次には基本的な英語から専門的な英語への橋渡しを兼ねた薬学論文の基礎討論を行い、3

年次にはより専門性の高い英語を学んでおり、語学力を身につけるための体系的な教育が実施されている。

薬学専門教育を効果的に履修するため、1年次の理系基盤教養教育プログラムでは13科目23単位から10科目17単位を履修する。すなわち、物理学に関しては、物理の基礎を十分に理解できている者を対象とした「物理学Ⅰ-A」および「物理学Ⅱ-A」（選択必修、各2単位）、物理を基礎から学びたい学生を対象とした「物理学Ⅰ-B」および「物理学Ⅱ-B」（選択必修、各2単位）を開講し、さらに、実験や観測を通して科学を実証的に学ぶ「物理学実験-B」（必修、1単位）を開講している。数学に関しては、高度な数学を学ぶ「解析学-A」（選択必修、2単位）、最低限の内容を学修する「解析学-B」（選択必修、2単位）を開講している。生物学に関しては、高校で生物を履修していない者が多いため、必修科目として「生命科学Ⅰ-B」（2単位）、「生命科学Ⅱ-B」（2単位）を開講し、さらに、細胞から個体までの観察を行う「生物学実験-B」（必修、1単位）を開講して、大学で生物系専門科目を学ぶための基礎としている。一方、大学レベルの化学の基礎を学ぶために「基礎化学-B」（2単位）、「化学実験-B」（1単位）を必修科目として開講している。さらに、情報リテラシーの修得を目的として「情報処理-B」（必修、2単位）を開講している。

早期体験学習を行う科目として、1年次前期に「薬学概論」、「医療学入門」が開講されている。「薬学概論」では、少人数グループに分かれ、富山県内の病院、保険薬局を訪問している。「医療学入門」では、医学部学生と一緒に心肺蘇生法講習、介護施設訪問、介護体験が行われている。さらに、早期体験とは言えないが、4年次の「病院薬学」では県内病院においてインターンシップ形式で病院薬剤師業務を見聞している。「薬学概論」では学んだことをレポート提出し、「医療学入門」と「病院薬学」では発表会が行われている。

薬害、医療過誤、医療事故の概要、背景、その後の対応および予防策・解決策に関する教育として、1年次「医療学入門」では、特定非営利活動法人ネットワーク「医療と人権」理事や富山県難病相談・支援センター相談員などの外部講師を招聘し、薬害や医療事故について当事者目線での講義が行われている。医薬品の安全使用については、3年次「総合薬学演習」、4年次「保険薬局学」（ともに必修科目）で講義が行われている。4年次「臨床倫理学」では医療ドラマ教材などを用いてグループ討論によるケーススタディを行っている。これは有用な取り組みではあるが、この科目は選択科目であり、履修者は6名のみで少ない。

医療の進歩に対応するための生涯学習の必要性を学習するため、1年次の「薬学概論」「医療学入門」では、人的な資源として医療現場で活躍する薬剤師などから直接話を聞く

機会が設けられている。

富山大学薬学部では一般的な卒後研修会は行われていない。大学で実施される日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指す研修会には学生の参加を認めているが、平成30年度には5年次学生3名が参加したのみであり、また、このプログラムは薬剤師の資質向上を図るための生涯学習プログラムとは言い難い。したがって、学生が参加可能な生涯学習の機会を増やすことが望ましい。

生涯学習に対する意欲を醸成するための必修科目は、1年次の「薬学概論」、「医療学入門」および4年次の「保険薬局学」のみである。選択科目としては「薬学経済」、「臨床倫理学」が挙げられているが、これらも4年次科目である。したがって、生涯学習に対する意欲を醸成するための教育を体系的に行うことが望ましい。

4 薬学専門教育の内容

本中項目は、おおむね適合水準に達しているが、シラバスの記載項目に懸念される点が認められる。

富山大学薬学部薬学科では、平成26年度までの入学生には薬学教育モデル・コアカリキュラムに対応した旧カリキュラムを、平成27年度以降の入学生には改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに対応した新カリキュラムを編成している。旧カリキュラムでは、一部のSBO (Specific Behavioral Objective) が必修科目以外（選択科目または自由科目のみで対応しているSBO:99/1449）で実施されており、全学生に対して薬学教育モデル・コアカリキュラムの教育目標に準拠した教育が行われているとは言えないので、改善が必要である（基礎資料3-1）。一方、新カリキュラムでは、6年間の教育課程における必修科目で全てのSBOを網羅している。各授業科目のシラバスには一般目標(GIO:General Instructive Objective)と到達目標(SBO)が明示されており、各SBOの学習領域に適した学習方略を用いて教育が行われている。

基礎系実習科目として、理系基盤教養科目から1年次前期に「化学実験-B」を27時間(18コマ)1単位、同後期に「物理学実験-B」を27時間(18コマ)1単位および「生物学実験-B」を31.5時間(21コマ)1単位実施している(基礎資料1-1)。薬学専門科目では、2年次に「物理系実習(分析化学、物理化学I、II)」として計121.5時間(81コマ)3単位、「化学系実習(分子機能、有機化学、生薬学)」として計180時間(120コマ)4単位、3年次に「生物系実習(微生物化学、生化学、衛生化学、放射線基礎学)」として計162時間(108コマ)4単位、「医療系実習(生物物理化学・製剤学、薬剤学、薬理学)」として計121.5時

間(81コマ)3単位を実施しているとしている。しかし、シラバスによれば、時間数は「物理系実習」として計121.5時間、「化学系実習」として計166.5時間、「生物系実習」として計139.5時間、「医療系実習」として計117時間であり、合計すると専門科目の実習は13科目、14単位で544.5時間実施されている。このほかに医学部および和漢医薬学総合研究所の教員との連携にて開講している必修科目「和漢医薬学入門」(2年次前期、金曜4～5限)において21時間(14コマ)の和漢薬・漢方薬に関する基礎実習を行っている。このように、実験実習の時間数は十分である。

基礎と臨床の知見を相互に関連付けるように努めている科目として、「自己点検・評価書」では「創薬化学」「病態薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「疾病医療学」「総合薬学演習」「臨床薬物動態学」を挙げている。しかし、シラバスを見る限り、「総合薬学演習」以外の科目において行われているのは、科目内での基礎と臨床の関連付けではなく、関連した科目を示すことである。3年次の「総合薬学演習」では科目内で基礎と臨床の関連付けが行われており、課題とされた薬物について、医薬品開発過程における薬物の探索、合成、構造活性相関を調査すると共に、薬理作用、臨床応用、体内動態、副作用、相互作用など、臨床に関する調査ならびにグループ討議を行い、その成果を教職員が参加する発表会にて発表するもので、特定の医薬品に対する基礎科学的な理解と共に、臨床応用に必要な臨床薬学的な知識を総括して学習することができる。

1年次に開講される「医療学入門」では救急救命士、介護施設勤務者、看護師、介護対象者、そのご家族と接して説明を受けており、4年次開講科目である「臨床前実習Ⅱ」で医療関係者、薬事関係者から活動内容を聴講している。

各授業科目の関連性を示したカリキュラム・マップが作成されており(基礎資料4)、授業科目の関連性に配慮がなされていること、および基礎から応用・臨床へと効果的な学習ができる体系的な教育課程となっていることが確認できる。

大学は、薬学専門教育の全項目の約25%が大学独自の教育内容を取り入れ、独自教育の具体的な内容や対応箇所については、シラバスの備考欄などに明記して、学生に周知しているとしている。教育研究上の目的にある「和漢薬を含めた広範な医療分野で活躍する薬剤師などの育成」に基づいて、「和漢医薬学入門」(2年次、必修)、「東洋医学概論」(3年次、選択)、「東西医薬学」(4年次、選択)が開講されている。平成30年度からは和漢薬に特化したカリキュラムである和漢薬コースを開設し、東洋医学を基盤とした和漢薬と西洋医学を基盤とした化合物ベースの医薬品を組み合わせ、より有効かつ安全性の高い治療法を考案できる医療人を養成することを目指している。しかしながら、独自科目とされ

ている「東洋医学概論」（3年次、選択）のシラバスには独自項目があることが明記されておらず、内容のすべてを独自項目としている「医療統計学」（6年次、選択）は薬学教育モデル・コアカリキュラムのC17(5)に該当する内容を含むと思われることに加えて、シラバスには独自項目についての記載がないなど、科目あるいは項目の独自性について記載されていない科目が散見されるため、シラバスに独自科目あるいは独自項目の明記を徹底することが必要である。

全ての専門教育科目は、必修・選択を問わず時間割上の重複はなく、学生のニーズに応じて大学独自の教育内容を含む講義を自由に選択、履修することができる。

5 実務実習

本中項目は、おおむね適合水準に達しているが、実務実習事前学習の総合的な目標達成度の評価指標ならびに病院実習の単位設定などに、懸念される点が認められる。

富山大学薬学部薬学科の実務実習事前学習は、その科目として4年次前期の「保険薬局学」「病院薬学」、4年次後期の「臨床前実習Ⅰ」「臨床前実習Ⅱ」が相当する。この4科目は改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム F 薬学臨床の「前）」と示されているSBOsに準拠して行われている。

実務実習事前学習の学習方法として講義、実習、演習が行われている。事前学習の合計時間数は148コマで、十分な時間である（基礎資料6）。事前実習のために薬学部研究棟Ⅱの3階に335m²の臨床前実習専用のフロアがあり、調剤系実験室、TDM(Therapeutic Drug Monitoring) 実験室、模擬無菌室、模擬病室、およびSGDを行う共通室が設置されている。

実務実習事前学習は、医療薬学研究室と薬物治療学研究室に所属する専任教員6名（教授2名、准教授2名、助教2名）が主体となって行われている。この中で実務家教員は3名（教授2名、准教授1名）であり、実務経験に基づいた一定水準以上の知識・技能を兼ね備えた教員が実務実習事前学習を担当している。このほか、医師として診療業務にも従事している薬学部専任教授と専任講師、担当以外の研究室の実務家教員である専任准教授、および富山県内の病院薬剤師が参加し、実務実習事前学習を実施している。

4年次の4月から12月までの間、実務実習事前学習が行われているが（基礎資料6）、翌年2月末から始まる実務実習の前には、前期に履修した「保険薬局学」、「病院薬学」で修得した知識の確認は行われていない。

「保険薬局学」、「病院薬学」では受講態度ならびに定期試験の結果によって評価が行われている。「臨床前実習Ⅰ、Ⅱ」では、各実習項目別に小テスト、レポート、実地試験、実習日誌記載の内容によって評価が行われている。このように個々の科目（項目）についての目標到達度の評価は行われているが、4科目を学び終えた時の、総合的な目標達成度を評価する指標は設定されていないので、改善が必要である。

「臨床前実習Ⅰ、Ⅱ」の履修後、演習形式による確認試験で各学生の到達度を確認しているが（平成30年度は11月27日）、2月末からの実務実習の直前ではない。不安のある学生には本人からの申し出により各担当者が指導している。また、「臨床前実習Ⅰ、Ⅱ」の単位を修得しながら4年次に留年した学生に対して、本科目の再聴講ができることを定めている。

学生が実務実習を行うために必要な能力を修得しているか否かを共用試験（C B T : Computer Based Testing、O S C E : Objective Structured Clinical Examination）の成績に基づいて評価している。C B Tの合格基準は「正答率60%以上」と定め、これを遵守している。O S C Eの採点は、薬学共用試験センターのシステムを使用して、合格基準を薬学共用試験センターの「薬学共用試験実施要項」に示されている課題ごとに、細目評価で評価者2人の平均点が70%以上、かつ概略評価で評価者2人の合計点が5点以上を合格とすることを遵守している。

薬学共用試験の実施時期、実施方法、合格者数および合格基準は翌年度始めに薬学部ホームページで公開されている。「自己点検・評価書」には薬学共用試験の合格者数に加え受験者数も記載されている。

C B Tは、薬学共用試験センターの「薬学共用試験実施要項」、「薬学共用試験C B T実施の手引き／実施マニュアル」に基づき、関連する教職員が十分な理解をした上で実施している。O S C Eについては、薬学共用試験センターの「O S C E実施要項」、「薬学共用試験 O S C E実施マニュアル」および「薬学共用試験O S C E 運用メモ」に基づいて作成された「富山大学薬学部O S C E実施マニュアル」を使用し、実施している。

C B T実行委員会は薬学部教務委員会委員長1名（職指定）と、薬学部教授会で選出された3名が委員を務めている。平成30年度については、委員長の判断で、適正な試験の実施のために委員に加えオブザーバー3名を置いている。O S C E実行委員会は委員長の他、「臨床前実習Ⅰ、Ⅱ」を担当している医療薬学研究室と薬物治療学研究室から各1名および薬学部各研究領域から7名の、計10名にて組織されている。それぞれの委員会で、毎年、実施に対する事項を協議し、薬学部教授会にて審議・承認の上、共用試験を運用している。

C B Tは、杉谷キャンパス講義実習棟情報処理実習室に設置されている大学共通のパーソナルコンピューター（学生用130台）を利用して、1日で行っている。O S C Eは、杉谷キャンパス内の一部を試験関係者以外立ち入り禁止区域とし、主に薬学部研究棟Ⅱ3階の調剤系実験室、TDM実験室、模擬病室、共通室およびゼミ室1～3を用いて、2レーン、1日で行っている。薬学共用試験センターO S C E実施委員会およびモニター報告では問題は指摘されていない。

実務実習の実質的な運営は、「病院実習」については薬物治療学、「薬局実習」については医療薬学研究室の教員が担っている。一方、責任をもって運営するために薬学部内に教務委員長または副委員長を委員長とした「富山大学薬学部実務実習委員会」（主な構成員：教務委員会委員、実務実習担当研究室教員）が設置され、当該年度の実務実習の実施・評価方針等の審議・決定を担っている。また、実務実習の受け入れ先との協議のために「富山大学薬学部病院実習運営協議会」「富山大学薬学部薬局実習運営協議会」が設置されている。実務実習委員会と両協議会の連携については、薬学部実務実習委員会が薬学部教員のみで構成され、実務実習の実施・評価方針等の審議決定を担っている。一方、薬学部病院実習運営協議会および薬学部薬局実習運営協議会は、薬学部教員と実習担当薬剤師や調整機構委員との協議の場であり、当該年度の実務実習における問題点や薬学部実務実習委員会の決定事項について意見交換を行っている。協議会での意見交換の内容は薬学部実務実習委員会での審議に反映されることになっている。このように、大学と実習施設の指導薬剤師の連携は適切になされている。

「自己点検・評価書」（46ページ、図2）に富山大学薬学部の実務実習実施体制が図示されている。この図は大学の関係する委員会と実習施設の連携を示していて、実務実習の円滑な実施に有用と考えられる。しかし、この体制（図）は実習施設や学生、関係機関へ周知されていないため、学生や関係機関への周知が望ましい。

学生には、入学時より計画的に麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の抗体検査およびX線撮影による結核検査を実施している。各種の検診や検査の結果は、個人情報として保健管理センターにより厳重に管理されている。学生の健康管理および安全確保の観点より必要と判断された事項については、個人情報であるため、学生本人から実習施設の指導薬剤師に実習開始前に伝えるように指導している。具体的には、健康状況、予防接種状況に関する書類を実習開始前の訪問時に実習先に提示し、配慮を要する学生の場合は、事前に実習施設に情報を提供することで、実習が問題なくできるように努めており、問題発生時には互いに連携した対応ができる体制が構築されている。

学生の所属研究室の教員は実務実習における病院・薬局訪問（毎期各3回）を行い、その時に学生の実習に対する態度や形成的評価などを介して実務実習の進行状況の情報を共有している。訪問時以外の学生指導についても、その所属研究室教員が実務実習管理のWebシステムを利用して、各実習項目に対する学生の自己評価や指導薬剤師の評価、学生の日誌などを確認し、実習中の問題点（態度、出席状況などを含む）や実習の進捗状況、実習到達度（評価）等の把握に努め、実務実習の実施に参画している。

実務実習の配属先は実務実習担当教員と富山県病院薬剤師会、富山県薬剤師会との調整の上、北陸地区調整機構総会での審議・承認を経て決定している。病院実習の一部は富山大学附属病院（以下附属病院）において実施される。この実習を受ける学生は薬学部および和漢医薬学総合研究所の臨床系4研究室に所属する学生（16名）であり、これらの学生には附属病院ならびに所属研究室での実習となることを3年次の研究室配属時に伝えている。薬局実習では、1期間に3名以上の実習生を受け入れている施設があるが、一部の指導薬剤師の負担が過剰となっている可能性も考えられ、適切な担当学生数となるよう努めることが望ましい。

学生の配属決定に際し、通学経路や交通手段への配慮がなされているが、一部の学生には公平になっていない点がある。

「病院実習」については、先端医療を学ぶために、富山県以外での病院実習を実施しており、平成30年度は秋田大学医学部附属病院で1名の学生が実習を行っている。この場合には半年以上前から病院実務実習担当教員と受け入れ先病院が連絡を取り合い、さらに実習開始1か月前には学生自身が実習指導者に直接連絡し、実習内容の理解に努めている。当該学生についても他の学生と同様に、実務実習管理のWebシステムやメールで実習の進捗状況、実習到達度（評価）等の把握に努めると共に、教員が訪問し、実習の状況を確認している。「薬局実習」については、実習生全員を受け入れる体制が整っていることから、県外での実習は行っていない。

実務実習は、認定実務実習指導薬剤師の資格を有する薬剤師が最低1名は配置されている医療機関で行っている。附属病院での実習の中で、薬剤部における実習は認定実務実習指導薬剤師が指導している。一方、病棟における実習では学生が所属する研究室の教員が加わり、指導している。

実務実習の実施施設については、病院は教育効果を配慮して100床以上であること、薬局は北陸地区調整機構主催の富山県地域の説明会で表明されたものを基準として実習期間中に学生1名あたり100件の服薬指導が可能であることを条件として、選定している。

平成30年度に実施された実務実習の教育目標（一般目標・到達目標）は、実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠および網羅しており、その内容はシラバスに記載されている。すなわち、「病院実習」および「薬局実習」とも実務実習モデル・コアカリキュラムに沿って、全てのSBOsが実施できるカリキュラムを作成している。附属病院における実習において、医学部医学科の臨床実習生との協働で病棟実習を行うグループがあるが、協働実習は実習内容が重複している部分でのみ行われており、この他に薬学部単独の項目を薬学生のみを実施しているため、実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsを満たす病棟実習が行われている。

実務実習は、病院および薬局共に標準期間（11週間）を満たすように実施しているが、附属病院での病院実習は、薬剤部のセントラル業務6週間および病棟業務8週間の2部構成としているため、附属病院で実習を行う約16名の学生は標準期間よりも3週間長い14週間にわたって病院実習を行っている。しかしながら、「病院実習」の単位は他の施設で病院実習を行う学生と同じく、全学生で共通の10単位となっており、「病院実習」では学生間でその単位と実習時間に差がある状態である。そのため、「病院実習」の期間とその単位については、全学生で等しくなるように改善が必要である。

実務実習施設との連携体制は、実習開始前の「初回」、実習期間中の「2回目」および「3回目」の計3回にわたる学生が所属する研究室の教員の訪問を主とし、電話やメールも含めて構築している。各訪問時の状況は「病院訪問記録」または「薬局訪問記録」として病院・薬局の実務実習担当研究室に集約され、その情報を管理している。訪問時には、実習中の問題点（態度、出席状況などを含む）や病院および薬局実習評価表に関する指導薬剤師からのコメント、さらに次回以降の要望などについて学生および指導薬剤師と面談し、意見交換をしている。病院および薬局への教員訪問時の案内資料ならびに訪問記録から訪問は適正に行われていると判断できる。しかし、教員によっては訪問記録の記載が不十分なものも見られた。

学生による関連法令や守秘義務等の遵守については、実務実習前の病院および薬局実習説明会において徹底した指導を実施している。さらに、学生に対して「富山大学薬学部 病院・薬局における実習の誠実な履行、個人情報保護、病院・薬局の法人機密情報の保護に関する説明文書」に則った「富山大学薬学部 病院・薬局等における実習の誠実な履行、個人情報保護、病院・薬局の法人機密情報の保護に関する誓約書」を書面にて取り交わしている。また、富山大学薬学部と各実習施設の間では、実習施設ごとに「病院・薬局実習に関する協定書」を締結している。

病院および薬局実務実習における学生の指導は、実務実習管理のWebシステムに掲載されている実務実習モデル・コアカリキュラムに基づき、到達目標ごとに作成された評価基準を用いて実施している。学生と指導薬剤師がそれぞれ各到達目標について段階評価を実施している。実習終了時には、実習先の認定実務実習指導薬剤師（病院の場合は、薬剤部長や薬剤科長も加わる）が到達目標ごとの「病院実習評価表」あるいは「薬局実習評価表」を作成し、大学に提出する。「病院実習」については、病院実習評価表、教員の訪問時の訪問記録、実務実習後の報告会での発表内容および質疑応答を総合して評価を行っている。附属病院で実習を行う学生に関しては、病棟実習の際の指導薬剤師が卒業研究室の教員の場合もあり、この教員が指導者と評価者の両方の立場になる。しかし、学内病院実習指導教員も、学外病院の指導薬剤師と同様に実務実習成績を提出し、その上で、実務実習担当研究室の教員を最終の成績入力者としているので、不公平な評価とはなっていない。

「薬局実習」については、実務実習先の認定実務実習指導薬剤師または指導薬剤師の意見を尊重し、実習日報、実習報告書、実習報告会資料などを総合的に評価している。

実務実習における学生の指導は、実務実習管理のWebシステムを用いて、実務実習記録を指導薬剤師、学生、大学教員の3者で共有し、問題点の抽出と解決を図っている。また、学生による自己評価、指導薬剤師の評価、実習の進行状況に対するフィードバックを適宜行っている。実習期間中に教員が実習施設を訪問する際も、これらの資料を基に、進捗状況のフィードバックを行っている。

実習終了後には、学生および病院・薬局薬剤師へのアンケート、ならびに教員からのコメントを収集し、これらの結果を集計し、次年度以降の実務実習の実施、施設選定、学生の配属に活用している。トラブルが発生した場合は詳細に事情を聞き、改善に努める他、実務実習担当研究室の教員が学部長に報告し、状況によっては薬学部教授会での協議を通して、以降の実務実習の教育効果が高くなるように努めている。

実務実習の成績評価は、「病院実習」については、学生が所属する研究室教員からの訪問時の報告書に記載されている実務実習先の薬剤部長、認定指導薬剤師または指導薬剤師の意見を参考（20％）に、実習日報と実習用チェックリスト（80％）を参照して、行っている。また、各学生の態度に対する形成的評価を行い、成長できるような行動をしているかどうかも加味している。最終成績認定者は、「薬局実習」では薬局実習担当の医療薬学研究室の教授、「病院実習」では病院実習担当の薬物治療学研究室の教授である。一方、「薬局実習」については、実務実習先の実務実習認定指導薬剤師または指導薬剤師の意見を尊重し、60％を指導薬剤師の評価としている。評価内容は、①実習期間中の実習態度、実習内

容の習得度、②薬学臨床の基礎、③処方箋に基づく調剤、④薬物療法の実践、⑤チーム医療への参画、⑥地域の保健・医療・福祉への参画、の6項目で、総点は60点である。これらの評価項目はこれまで明記されていなかったが、2019年度のシラバスには明記した。以上のように、「病院実習」と「薬局実習」の成績評価を個別に行っており、適切な指標に基づいた病院・薬局実務実習の総合的な学習成果の評価は行われていない。

6 問題解決能力の醸成のための教育

本中項目は、おおむね適合水準に達しているが、問題解決能力の醸成に向けた教育における、関連科目を総合した目標達成度の評価指標設定などに懸念される点が認められる。

「卒業研究」は必修科目であり、4年次に2単位、5、6年次通年で8単位の合計10単位が設定されている（基礎資料1-4, 1-5, 1-6）。4年次は講義、臨床前実習および薬学共用試験（平成30年12月2日OSCE、平成31年1月9日CBT実施）以外の期間で「卒業研究」を行い、5年次、6年次は実務実習期間（約5か月）以外の期間を「卒業研究」に充て、6年次10月末まで行われており、卒業研究の実施時期、期間は適切である。

各学生は「卒業論文作成方針」および「卒業論文作成要領」に従って単著の卒業論文を作成し、6年次10月末の研究終了時に医薬系学務課に2部提出する。

「卒業論文作成要領」には必須記載事項として「総括（まとめ）：得られた結果に基づいて、研究内容を総括すること。得られた知見の医療や薬学における位置づけを明瞭に示すこと」と記載されている。また、「薬学科卒業論文の作成について」にも「要旨には、研究の背景と目的、方法、結果及び考察等を含める。考察には、医療や薬学における位置づけを含める。」と記載されている。

「卒業研究」開始から約1年後の4年次2月に卒業研究中間発表会（ポスター発表）が開催され、成績評価が行われると共に、研究課題の進捗状況を把握する機会が設けられている。また、卒業論文提出後の6年次11月上旬（通常第1週金曜日）に6年次卒業論文発表会（口頭発表）が開催されている。

「卒業研究」の評価は、指導教員（主査）と他研究室教員（副査）によって、それぞれ卒業研究評価表を用いて点数化されている。4年次単位（2単位）については、卒業研究中間発表会（4年次2月開催、ポスター発表）でのプレゼンテーション（50%）と研究意欲・態度（50%）が評価されて、単位認定される。5、6年次単位（8単位）については、卒業論文・卒業研究発表（30%）、問題解決能力（30%）および研究意欲・態度（40%）が評価されている。

「卒業研究」における問題解決能力の評価では、主査は全研究期間を通して、副査は卒業研究発表会を通して評価し、それぞれ統一の評価表を用いている。

問題解決能力の醸成に向けた教育として、1年次の「医療学入門」、3年次の「総合薬学演習」のほか、1年次から6年次まで多数の科目が挙げられている（「自己点検・評価書」62ページ）が、これらの科目の中には、問題解決型の学習としては不適切な学習方略が含まれている。また、4年次から5、6年次の「卒業研究」のほかに、問題解決能力の醸成に向けた教育科目が低学年から高学年にかけて開講されているが、この中で問題解決能力の醸成に向けた教育であることがシラバスに明示されていない科目がある。

学習方法としては「薬学概論」「医療学入門」「薬学経済」では参加型学習を取り入れている。3年次の「総合薬学演習」の他、英語科目や実習科目を中心に13科目においてはグループ学習が実施されている。さらに、「自己点検・評価書」の表によれば、自己学習を16科目で取り入れているが、これらの科目における自己学習で問題解決能力を必要とする能動的なテーマを取り入れていることをシラバスに記載することが望ましい。

「総合薬学演習」（3年次必修、1単位）では、発表会に参加している学生および教員がプレゼンテーション評価表により各グループの発表を評価している。また、「卒業研究」では、問題解決能力の向上を適切に評価するための評価表（ルーブリック）を用いて、複数の教員によって厳格に評価されている。

しかし、「自己点検・評価書」62ページにある他の科目については、指標や評価に関してシラバスには記載がない。また、問題解決能力を醸成する教育について、「卒業研究」も含めた全ての関連科目を総合した目標達成度の評価指標が定められていないため、今後明確な指標を設定し、適切に評価する必要がある。

問題解決型学習に相当する時間数は318.8時間であり、1単位を30時間として計算すると、10.63単位相当となり、「卒業研究」の10単位と合わせて20.63単位になるとしている。しかし、「自己点検・評価書」62ページに示された、問題解決型学習を取り入れているとされる科目の大部分に関しては、シラバスに問題解決能力を醸成するための目標設定がされておらず、学習方法は記載しているが、目標達成に至る具体的な方略は記されていない。さらに、問題解決能力を評価する指標が設定されておらず、適切に評価されているとは言い難い。そのため、問題解決型学習の実質的な実施時間数は、提示されている20.63単位より少ない。

問題解決型学習としている科目には選択科目が複数含まれており、低学年次の選択科目は履修者が多いが、高学年次の選択科目（薬学経済、臨床倫理学、臨床薬物動態学）の履

修者は半数以下であるため（基礎資料1）、高学年次に配置している問題解決型学習を含む選択科目の履修者を増やすことが望ましい。

7 学生の受入

本中項目は、適合水準に達している。

富山大学共通のアドミッション・ポリシー、薬学部薬学科の教育研究上の目的に基づき、薬学科のアドミッション・ポリシー（平成30年度改訂版）は下記のように設定されている。

<入学者受入れ方針> （アドミッション・ポリシー）

薬学部の人材養成の目的である、薬の理解を通じて、人類の健康、福祉、衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる人材を育成するに当たり、薬学科では、次の人材を求める。

- ・ 薬剤師としての高度な学識と職能を得たい人
- ・ 医薬品の研究や臨床開発に携わることで人類と社会に貢献したい人
- ・ 東西医薬学の融合による統合医療の実践を目指す人
- ・ 医療や保健衛生の分野で社会に貢献したい人

<入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）>

- ・ 一般入試（前期日程）

大学入試センター試験では、基礎学力を評価する。

個別学力検査では、「数学」及び「理科」を課して、数学力、理解力、応用力、表現力、科学的思考力等を評価する。

- ・ 一般入試（後期日程）

大学入試センター試験では、基礎学力を評価する。

個別学力検査では、「小論文」及び「面接」を課して、論理的思考力、文章表現力、学習意欲、適性等を評価する。

- ・ 特別入試（推薦入試、帰国生徒入試）

「書類審査」、「小論文・適性検査」及び「面接」を課して、学習到達度、科学的思考力、文章表現力、学習意欲、適性等を評価する。

- ・ 私費外国人留学生入試

日本留学試験では、日本語力、理科及び数学の基礎的学力を評価する。

「数学」及び「理科」を課して、数学力、理解力、応用力、表現力、科学的思考

力等を評価し、「面接」により学習意欲、適性等を評価する。

<入学前に学習すべきこと>

薬学は、広範で多様な学問分野から成っているため、入学までに、化学、物理学、生物学、数学、語学の基礎学力を付けておくことが望ましい。

<求める資質・能力>

●幅広い知識

【求める資質・能力】

教養教育を受けるにふさわしい基礎知識を身に付けている。

教養教育に対する深い関心と学ぶ意欲を持っている。

●専門的学識

【求める資質・能力】

薬学を学ぶために必要な基礎知識、語学力、理解力、論理的思考能力を身に付けている。

●問題発見・解決力

【求める資質・能力】

薬学関連分野の課題に対し、調査・分析・実験等により解決策を導き出す意欲を持っている。

●社会貢献力

【求める資質・能力】

高度な学識と職能を有する薬剤師として、社会に貢献する意欲を持っている。

医薬品の研究や臨床開発に携わることで、人類と社会に貢献する意欲を持っている。

医療や保健衛生の分野で、社会に貢献する意欲を持っている。

●コミュニケーション能力

【求める資質・能力】

多様な社会の中で、相手に働きかけて意思の疎通を図り、豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていく意欲を持っている。

薬学科のアドミッション・ポリシー(平成30年度改訂版)は、全学の教育・学生支援機構会議、教育研究評議会、および薬学部教授会で議論され、責任ある体制の下で策定されている。

薬学科のアドミッション・ポリシーは、富山大学ホームページおよび薬学部ホームページに掲載され、常時、学内外に広く公表されている。また、アドミッション・ポリシーは、

学生募集要項や高校生向けに大学を紹介した「富山大学薬学部パンフレット」に掲載され、さらにオープンキャンパス、高大連携の一環である県内の高校生への講義、高校生を対象にした「大学見学会」「出張進学説明会」「出張模擬授業」、および全国各地における大学相談会での配付等を通して、適宜紹介されている。

薬学部薬学科の入学志願者の選抜に関する事項は「富山大学薬学部入学試験委員会内規」に基づき、薬学部長を委員長とする富山大学薬学部入学試験委員会が掌握し、審議している。

個別試験問題作成および採点にあたっては、「富山大学入学試験委員会規則」の規定に基づき、「富山大学入学試験委員会専門委員会運営内規」に則り、問題作成専門委員会および採点専門委員会を設置し、それぞれの専門委員が問題作成ならびに採点を行っている。

個別試験問題作成については、一般入試（前期日程）では、富山大学全体の個別試験の一環として行われ、「富山大学入学者選抜検査の実施に関する申合せ」に従い、当該年度の入学試験問題の原稿作成要領により、問題作成業務にあたっている。一般入試（後期日程）および特別入試（推薦入試及び帰国生徒入試）の問題作成は薬学部入学試験委員会が担当し、上記と同様に「富山大学入学者選抜検査の実施に関する申合せ」に従い、当該年度の入学試験問題の原稿作成要領により、問題作成業務にあたっている。一般入試の合格者決定は、薬学部入学試験委員会にて富山大学薬学部一般入試合否判定基準を確認後、審議により合格候補者を選定し、薬学部教授会の審議を経て行われている。特別入試（推薦入試及び帰国生徒入試）の合格者決定は、一般入試と同様に薬学部入学試験委員会にて富山大学推薦入試合否判定基準を確認後、審議により合格候補者を選定し、薬学部教授会に付議し、薬学部教授会の審議を経て行われている。

薬学科の入学者選抜試験および合否判定基準については、学生の平成26～30年度の低学年での進級率がほぼ9割を超えていること、さらにストレート卒業率がほぼ8～9割に達すること、留年者等の過度な発生状況がないこと（基礎資料2-1, 2-3, 2-4）、さらに、平成29年度卒業時アンケート調査の薬学科教育に関する全ての項目について8割以上の学生が「身につけることができた」としていることから、入学後の教育に求められる基礎学力は適確に評価されていると判断できる。

医療人としての適性を評価するために、一般入試（後期日程）ならびに特別入試（推薦入試及び帰国生徒入試）において、小論文と面接を課している。また、私費外国人留学生入試においても面接を実施している。小論文では、時事問題を含む与えられた課題に対する思考力ならびに表現力を評価している。しかしながら、一般入試（前期日程）では面接

や小論文を課しておらず、センター試験と富山大学の個別学力検査のみで合否を判定することから、医療人としての適性の判断はできていない。小論文や面接を課している試験（一般入試（後期日程）と特別入試）での入学者は全体の半数以下である。そのため、一般入試（前期日程）においても医療人としての適性を評価することが望ましい。入学定員に対する入学者数は、過去6年間で100%から109%であり、適正である（基礎資料7）。

8 成績評価・進級・学士課程修了認定

本中項目は、学則に規定のない試験による成績評価および教員の裁量による最終評定に重大な問題があり、適合水準に達していない。

各科目の成績評価の方法・基準は、担当教員によって設定され、シラバスの「成績評価の方法」欄に中間試験、期末試験、小テスト、レポートなど成績評価に関わる具体的な方法ならびにその配分割合を記載している。しかし、中間試験、期末試験以外に、成績が60点未満の学生を対象にした試験が行われていることがあるが、この試験については「富山大学薬学部規則」に規定がない。また、シラバスの「成績評価の方法」欄に、出席状況といった評価指標としては相応しくない項目を含んでいる科目がある。さらに、複数の項目で成績を評価する場合に各項目の配分割合の記載がない科目があるため、改善が必要である。学生は、成績評価の方法・基準を、富山大学学務情報システム（ヘルン・システム）や入学時に配付される「医学部・薬学部履修の手引き」を通じて参照・確認できる。また、やむを得ない事由により試験を受けられなかった場合は、試験欠席届の提出を経て、認められた場合に追試験が行われることが「富山大学薬学部規則」第6条第4、5項に規定されている。

「富山大学薬学部規則」第7条の規定に基づき、各科目の担当教員は100点を満点とし、秀（90点以上）、優（80点以上90点未満）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）および不可（60点未満）の5段階で成績を評価している。しかし、一部の科目において、60点未満や70点以上であっても成績を可としているなど、上記の規定に反して教員の裁量で最終評定が行われていることは不適切なので、改善が必要である。

学生は、ヘルン・システムを通じてGPA（Grade Point Average）を含め成績を確認できる。学生が成績評価に関して異議がある場合には異議申立てができる制度がある。

進級判定は、各学年の進級基準に基づき、薬学部教務委員会にて単位修得状況を確認した後、薬学部教授会の審議を経て行っている。判定の結果は、進級者の学籍番号を掲示す

ることによって学生に告知すると共に、保護者に対しては「成績通知書」を郵送して通知している。

留年生に対しては、クラス担任連絡会で対応を協議の後、保護者に連絡し、新年度開始前の3月に保護者の同席のもと学生本人と面談を実施している。面談にはクラス担任または配属研究室担当教員、薬学部教務委員会委員、医薬系学務課職員、学生支援センター職員等が出席し、就学意思の確認や今後必要なサポート等について話し合いを行っている。これに加え、留年生に対して、年度初めに留年生向けガイダンスを実施している。また、クラス担任連絡会では、科目担当教員からの情報提供により留年生の講義出席状況を把握し、欠席がちな学生への指導に当たっている。

学生は「富山大学薬学部規則」第2条第4項の規定に基づき、原則として別表で規定する履修年次に従って履修しなければならない。留年生の上位学年配当の授業科目の履修を認めていない。

教務委員長およびクラス担任は、必修科目の担当教員がヘルン・システムに入力した出席状況を閲覧、確認することで、出席率が低下している学生の早期発見に努めている。1年次の学生に対しては薬学部教員で構成される連絡教員制度（薬学部なんでもQ&A）を設置し、学生が割り当てられた連絡教員の研究室にて交流を行うことによって、学生と教員の関係構築を図っている。研究室仮配属後の3年次12月以降は、主に配属研究室の教員が学生の就学状況を把握し、指導を行っている。この他に学生相談室では、学生の留年、在籍等に関する相談を随時受け付け、指導を行っている。

ディプロマ・ポリシー（平成30年度以降入学者に適用）は教育研究上の目的に基づいて策定されている。

<卒業認定・学位授与方針> （ディプロマ・ポリシー）

薬学科では、人類の健康、福祉、衛生及び健全な社会環境の保全と向上に貢献できる人材を育成するため、定められた教育課程で十分な学修成果を上げ、以下に示す「幅広い知識」、「専門的学識」、「問題発見・解決力」、「社会貢献力」、「コミュニケーション能力」を身に付けた者に学士（薬学）を授与する。

<学修成果の到達目標>

●幅広い知識

【学修成果】人文科学・社会科学・自然科学・健康科学の諸分野を学際的に捉え、多様な文化的・歴史的背景を持った地域や社会を理解し、行動する能力を身に付けている。

【到達指標】 教養教育科目の卒業要件単位を修得していること。

●専門的学識

【学修成果】 基礎科学に裏打ちされた、医薬品等の安全性と有効性に関する深い学識と薬剤師業務に必要な基本的技能を修得し、和漢薬を含む薬物療法の実践及び公衆衛生の向上に寄与する能力を身に付けている。

【到達指標】 専門教育科目（講義及び実習）の卒業要件単位を修得し、薬剤師として必要な知識・技能を身に付けていること。

●問題発見・解決力

【学修成果】 健康と疾患に対する深い洞察力を持って薬学関連分野の問題や課題に取り組み、学術情報の収集・分析及び実験等の研究活動を通して得られる結果を論理的に考察し、解決に向けて議論・発表できる能力を身に付けている。

【到達指標】 総合薬学演習及び卒業研究において、学修成果に挙げる能力を修得していること。

●社会貢献力

【学修成果】 医療人としての規律、倫理等を守り、患者及び医療に関わる全ての人々の立場を理解しながら、薬剤師として果たすべき役割を認識し、チーム医療・地域保健医療に対して責任ある行動をとる能力を身に付けている。

【到達指標】 薬学概論、医療学入門、臨床実務実習等の単位を修得していること。

●コミュニケーション能力

【学修成果】 他者との積極的な意思疎通を図ることで、豊かな人間関係を築きながら自己の成長へとつなげることに努め、異なる考えや言語文化を有する人々の立場を理解し、誠実かつ柔軟なコミュニケーションを取る能力を身に付けている。

【到達指標】 卒業研究や臨床実務実習において、指導教員、指導薬剤師及び学生（大学院生や留学生を含む）と良好な人間関係を構築していること。

ディプロマ・ポリシーについては、薬学部教務委員会で審議し原案を作成の上、薬学部教授会において審議し決定する体制をとっている。

ディプロマ・ポリシーは、「医学部・薬学部履修の手引き」に掲載しており、新入生に対してはオリエンテーションでこれを配付して説明を行うと共に、学年ごとに実施する新年度ガイダンスにおいても学生に口頭にて説明を行っている。教職員に対しては薬学部FD

の開催時に周知している。また、薬学部ホームページおよび全学ホームページに掲載して広く社会に公表している。

ディプロマ・ポリシーには、教養教育科目および専門教育科目の卒業要件単位を修得していることが到達指標として示され、卒業要件は、「富山大学薬学部規則」第11条の規定に基づき、別表の薬学部薬学科卒業要件単位に示されている。卒業要件等については、新入生オリエンテーションにおいて「医学部・薬学部履修の手引き」を配付し、学生に対し口頭で説明し周知を図っている。以上より、学士課程の修了判定基準は適切に設定され、学生に周知されていると判断される。

卒業判定は、6年次1月の薬学部教務委員会にて修得単位数の確認を行った後、薬学部教授会の審議を経て行っている。薬学部では卒業試験を実施しておらず、卒業延期生の制度はない。

学士課程の修了判定によって留年となった学生に対し、配属研究室の指導教員が個別に面談して、学生個々の事情に応じた対応を行うこととしている。なお、これまでに卒業判定において留年となった学生はいない（基礎資料2-4）。

薬学科では、教育研究上の目的に基づいて策定されたディプロマ・ポリシー5項目を満たすことを学士課程修了の認定条件としている。しかし、これら5項目の中、「問題発見・解決力」、「社会貢献力」および「コミュニケーション能力」に関しては学習成果を測定するための指標は明確ではない。したがって、教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を測定するための指標の設定、およびそれに基づく総合的な学習成果の測定を行うことが望ましい。

9 学生の支援

本中項目は、おおむね適合水準に達しているが、事故や災害に対する安全教育の徹底に懸念される点が認められる。

富山大学薬学部薬学科では、新入生には入学式前後に教養教育課程、専門教育課程および学生生活に関するオリエンテーションを実施し、薬学教育の全体像を概説すると共に、薬学部のカリキュラム構成や履修登録の方法などについて、カリキュラム・マップ（基礎資料4）を配付した上で説明している。

平成30年度から教養科目の理系基盤教育系で開講されている「物理学」において習熟度別クラス分けを行っており、入学までの習熟度に応じて「物理学Ⅰ-A」と「物理学Ⅰ-B」、「物理学Ⅱ-A」と「物理学Ⅱ-B」からいずれかを選択して履修できることにしている。

「数学」においても同様に、「解析学-A」と「解析学-B」を開講している。これらについては「教養教育ガイド」に記載すると共に、入学時の新入生オリエンテーションで説明するなど履修指導を行い、周知している。

各学年に対しても、4月の講義開始前にガイダンスを実施している。2年次以降は学科別に行い、履修上の留意事項などを説明している。臨床前実習のオリエンテーションは4年次の10月と11月に（基礎資料6）、実務実習の説明会は5年次の4月と5月に開催している。

3年次12月の研究室仮配属までは、クラス担任が学生の履修状況に応じて、随時、履修指導や個別面談をできる体制を整えているが、薬学科の各学年を教員が1名で担当する体制である。4年次以降は学生の配属研究室の教員が指導学生の単位修得状況を確認し、必要に応じて履修指導や学習相談を行っている。平成30年度から、学生の新生活において生じる問題点を早めに把握するため、入学から1年間、1つの研究室が学生5名程度を受け持つ「薬学部なんでもQ&A」制度（連絡教員制度）を設けている。

経済的支援としては、入学料および授業料の全額または半額免除、入学料徴収猶予、日本学生支援機構等の各種奨学金への対応があり、これらの情報は「富山大学キャンパスガイド」および大学ホームページに掲載されている。また、経済的支援の一環として学生寮を設けており、この寮の寄宿料に関しても全額または半額免除制度がある。

貸与型奨学金制度として、薬学部学生後援会が独自に実施している「学生後援会奨学資金援助」がある。給付型奨学金としては、海外留学を希望する学生を支援する「富山大学基金事業学生海外留学支援プログラム」および学生の海外派遣を援助する「富山大学杉谷キャンパス国際交流基金学生海外派遣援助事業」があり、これらの情報は「富山大学キャンパスガイド」および大学ホームページに掲載されている。

また、東日本大震災により被災し入学料の納付が困難な入学者に対しては入学料免除を、風水害で被災し授業料の納付が困難な学生に対しては授業料免除を申請できる制度を設けている。これらの情報は大学ホームページに掲載されている。

富山大学では五福キャンパスに保健管理センターおよび学生相談室が設置されている。保健管理センターには医師および看護師、臨床心理士を配置し、学生相談室では学生生活相談員が学生のあらゆる相談を受け付けている。薬学部がある杉谷キャンパスには保健管理センター杉谷分室と学生相談室が設置され、薬学科学生は主として分室を利用している。また発達障害や身体障害のある学生を支援するために、アクセシビリティ・コミュニケーション支援室が五福キャンパスに設けられており、その中のトータルコミュニケーション

支援部門と身体障害学生支援部門に配置された専任のスタッフが学生の悩み解決に向けた支援を行っている。これらの情報は「富山大学キャンパスガイド」および大学ホームページに掲載されている。

保健管理センターでは毎年4月に学校保健安全法に基づき定期健康診断を行っている。学生には定期健康診断の日程を掲示板や保健管理センターのホームページで周知すると共に、学年ごとのオリエンテーション時に、受診するよう指導している。定期健康診断の結果は保健管理センターで管理されており、異常または疑わしい所見があれば、再検査をするように助言・指導を行っている。例年、定期健康診断における未受診者数は薬学部教務委員会で報告されており、平成30年度は薬学科全体で5名であった。全学年の平均受診率は98.6%（346名中341名）であり、どの学年においても受診率は98%以上であり、未受診者へは受診を促している。なお、学生支援の一環として、定期健康診断を受診した学生には健康診断証明書を無料で発行している。

富山大学のハラスメント防止に関する規定としては「国立大学法人富山大学ハラスメントの防止等に関する規則」および「国立大学法人富山大学ハラスメントの防止・対策に関する指針」が整備されている。

各種のハラスメント問題に対応するため「富山大学ハラスメント防止委員会」が設置されており、学生がハラスメントに関する相談ができるハラスメント相談員を配置している。また、学生相談室もハラスメント問題の対応窓口となっている。

ハラスメント防止に関する取組みについては、富山大学ホームページおよび「富山大学キャンパスガイド」で学生に周知している。また教職員には、学生の快適な大学生活を支援するために杉谷（医薬系）キャンパスが独自に作成したパンフレット「“学生の有意義な生活を応援する”指導教員に求められる役割とは？」を毎年度配付し、啓発活動を行っている。

身体に障がい等（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、怪我、発達障害等）のある入学志願者が受験上および修学上特別な配慮を希望する場合は、出願に先立ち学務部入試課に事前相談することができる。この制度は富山大学ホームページの入試情報、学生募集要項〈一般入試〉、および学生募集要項〈特別入試〉に掲載している。

杉谷キャンパスでは、講義実習棟をはじめ、各研究棟、医薬学図書館、福利棟（学生食堂・購買）、厚生棟、および体育館に多目的トイレを設置すると共に、キャンパス内の移動経路のバリアフリー化に配慮しており、アクセシビリティ・マップも用意している。また、五福キャンパスの学生支援センターにアクセシビリティ・コミュニケーション支援室が設

置されており、身体障がい学生の個々のニーズに合わせ、物的・人的支援を行っている。人的支援としては、身体障害学生支援部門が学生ピアサポーターを養成し、学内の事情に詳しい学生ピアサポーターが中心となり、障がい学生の支援活動を行っている。薬学科の学生はこれまで地理的關係からこの活動には参加しておらず、利用学生もいなかったが、平成30年度以降は1年次の多くの時間をこのキャンパスで過ごすため、参加の可能性がある。

大学は全学的な進路支援を行う組織として「教育・学生支援機構就職・キャリア支援センター会議」を設置し、薬学部では薬学部長および副学部長がその委員となり、薬学系就職指導担当教員の任に当たっている。また医薬系学務課には就職支援を担当する事務職員が配置されており、薬学系就職指導担当教員と共にこの会議および就職ガイダンスの企画・運営等において重要な役割を果たしている。

杉谷キャンパスの学生向けの就職ガイダンスは年間に12回程度実施されており、就職活動に向けての自己分析、業界分析、面接試験対策を行い、さらには学内外の合同就職説明会の予定の周知も行っている。薬学部が主導する活動としては、「就職活動体験発表会」、「第3回薬都とやま未来懇談会(富山大学薬学系業界研究会)」、「富山県製薬企業セミナー」などが挙げられる。就職・進学・留学に関する情報や、就職支援・キャリア相談の体制については「富山大学キャンパスガイド」に掲載され、周知が図られている。

薬学部教務委員会が授業評価アンケートや卒業時アンケートを毎年度実施し、授業の内容や方法から学生サービス全般に関する要望等に関してできるだけ多くの学生からの意見収集を図っている。また、平成30年度以降の薬学部入学生については、「薬学部なんでもQ&A」制度(連絡教員制度)を設け、1年生が教員に意見を伝えやすい環境を作っている。

授業評価アンケートは、学期ごとに各教員が担当する講義終了時に行われ、授業の内容、方法、満足度等を調査するものであり、アンケートの結果は各教員に通知され、学内電子掲示板でも公開されている。各教員は、授業評価アンケートおよび卒業時アンケートの学修成果の到達度評価の結果を授業改善に役立てられるようになっている。各科目の授業評価アンケートの回収率は約70~100%であるが、回収率が低い科目もある。卒業時アンケートは卒業生を対象として、教育や学生サービス向上のための意見収集を目的として実施している。また、学生の意見を広く収集するため、アンケート以外の方法として、医薬系学務課に提案箱を設置している。

「安全ノート」が教職員や学生に対する安全教育の一環として各研究室に配付されている。これには教職員、学生が遵守すべき労働安全衛生法、消防法、毒物および劇物取締法、

放射線関連法規等に基づき、実験・実習を実施する際の安全に関わる基礎的な知識と、必要な手続き、廃棄物の処理方法、緊急時の処置等がまとめられているが、卒業研究学生への周知は十分とは言い難い。研究室配属前の学生に対しては、化学系実習開始時（2年次10月初旬）に、化学物質の取扱いや廃棄方法を中心とした安全講習を実施している。薬学科の基礎系実習において、シラバスに記載されている実習担当教員数は1～6名であり、学科定員が55名であることを踏まえると、担当教員1名あたりの指導学生数はおおむね9～55名と計算され、幅が大きい。しかし、実際には、シラバス非掲載の教員、リサーチアシスタント（RA）、あるいはティーチングアシスタント（TA）が実習指導に加わっていて、多人数の指導体制のもとで実習が安全に行われている。「卒業研究」の指導学生数は、各研究室の配属学生（薬学科4～6年次生）を総数と考えた場合に、教員1名あたり3名程度（基礎資料11）である。

学生の不慮の事故に備え、入学手続きを行う全ての学生に対して「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」と「学研災付帯賠償責任保険」の案内を行い、在学期間を通じての加入を義務付けている。平成30年度にはほとんどの学生が加入していたが、過年度生（留年生）6名が未加入であった。

ヘルン・システムによって、講義、実習の中止の緊急連絡、学生の安否確認を行っている。学内の避難マップ（AED設置箇所・避難場所）や富山市洪水ハザードマップ、緊急時の問い合わせ先等についても「富山大学キャンパスガイド」に掲載している。防災訓練には学生も参加しているが、4年に1度の開催では回数が少ないため、改善が必要である。

10 教員組織・職員組織

本中項目は、適合水準に達している。

薬学科の専任教員は、教授13名、准教授11名、講師1名、助教13名の計38名であり、大学設置基準に定められる専任教員数22名、ならびに教授数11名を大きく上回っている。なお、実務家教員は7名（教授4名、准教授3名）であり、これも大学設置基準を満たしている。また、兼任教員である創薬科学科（4年制）専任教員は、教授6名、准教授5名、助教5名の計16名である。薬学部の教員は薬学科または創薬科学科のどちらか一方の担当教員として分けられているが、実質的には薬学部全教員が薬学科の教育を担当しており、十分な人員配置である（基礎資料8,10）。

平成30年5月1日現在の在籍学生数から見積もった1名の教員に対する学生数は10名以内（9.1名（346/38））であり、適正である。

教授、准教授・講師、助教の数と比率は、教授13名(34.2%)、准教授・講師12名(31.6%)、助教13名(34.2%)であり(基礎資料8)、ほぼ均等で適切な構成となっており、40歳未満の若手教員は9名(23.7%)である(基礎資料10)。兼任教員(創薬科学科担当教員)を含めた場合も、教授19名(35.2%)、准教授・講師17名(31.5%)、助教18名(33.3%)とほぼ均等な構成である(基礎資料10、表1および2)。女性教員は薬学科全教員のうち3名(7.9%)と少ない(基礎資料9)。

専任教員は、研究業績、教育業績、教授能力ならびに学会および社会における活動を総合的に判断して選考し、配置している。助教に関しては、当該分野の教員等による推薦を経て、候補者の実績や能力を人事教授会で審議して選考している。

全教員に任期制を導入しており(教授・准教授・講師10年、助教7年)、再任に際しては任用期間中の教育および研究の業績を中心に審査し、教育研究体制の水準の維持に努めている。

薬学における教育上主要な科目において、講師以上の教員が、薬学科必修の講義と実習を担当している(基礎資料10)。

専任教員の年齢構成の数と比率は、60歳代3名(7.9%)、50歳代9名(23.7%)、40歳代17名(44.7%)、30歳代8名(21.1%)、20歳代1名(2.6%)であり、40歳代が最も多い傾向にあり、20~30代の教員は9名でやや少ない(基礎資料9)。

教員の採用については「国立大学法人富山大学教員選考基準」、「国立大学法人富山大学における教員採用・選考についての指針」で定め、教員人事は「教員人事プロセス」に従って行っている。人事教授会の下に選考委員会を設置し、公募においては、専門領域の教育研究を推進できること、4年制および6年制の薬学教育に対して意欲があること、国際感覚に富んでいることなどの応募資格に加え、担当する授業科目も明記するなど、研究業績のみならず薬学教育に関する抱負や実績についても重要事項として選考している。

富山大学薬学部薬学科では活発な研究活動が行われている(基礎資料15)。論文・著書・学会発表などの業績は、毎年編纂されている「富山大学杉谷(医薬系)キャンパス研究活動一覧」にまとめられ、大学ホームページ上に公開されている。

臨床実務経験を有する専任教員7名のうち、2名は富山大学附属病院薬剤部において、薬剤師としての実務を行いながら学生の指導にあたっており、常に先端医療に対応するための研鑽に努めている(基礎資料8)。他の5名の実務家教員は医療関連学会における認定薬剤師の更新や医療機関での治験審査委員会委員を務めるなど、新しい医療に対応するための研鑽を行っている。

薬学部の教員は主に杉谷キャンパスの薬学部研究棟を利用して研究活動を行っており、動物実験施設、遺伝子実験施設、アイソトープ実験施設、分子・構造解析施設、薬学部附属薬用植物園、医薬学図書館などの学内共同施設も研究活動に利用されている（基礎資料12, 13, 14）。

薬学部には基本的な教育研究を行うための運営費交付金（教育研究経費）が配分されており、薬学部全体の運営に必要な共通経費を除いた後、研究室当たりの研究経費、および研究室に配属されている学生（学部生と大学院生）当たりの単価についてルールを定め、各研究室へ適切に配分している。また、教育研究活動へのインセンティブを高めるために、論文発表や外部資金獲得状況などの実績に応じた傾斜配分も実施している。

薬学部薬学科教員の年間授業担当時間数は、専門領域の違いにより差が生じているが、週平均4.1時間である（基礎資料10 表1）。週平均時間として問題はないが、実務系研究室に所属し、実務実習事前学習と卒業研究を担当する教員が薬局実習の指導薬剤師も担当している状況があるなど、実務家教員の授業担当負担が他の教員に比べて大きいので、負担の軽減が望ましい。

富山大学では、研究振興課研究振興チームにより、科研費の最新動向に関する説明会、科研費獲得ワークショップ、および科研費公募要領説明会を開催することで、教員がより多くの科研費を獲得できるよう支援している。さらに、外部有識者によるコーディネーター、名誉教授によるアドバイザー、学内教員による相談員を配置し、研究課題の設定のポイントや研究種目の選択等の相談、研究計画調書の書き方等の点検・助言を行っている。

毎年、全教員を対象とした薬学部FDを開催している。薬学部FDは、薬学部教務委員会が開催日程および討論テーマ等の計画を策定し、教授会にて決定され、薬学部教務委員会の主導で実施されている。薬学部FDへの教員の出席率は毎年9割以上であり、当該FDに欠席した教員は他部局主催のFDに出席するよう努めている。

薬学部FDでは、討論テーマごとにグループで意見交換を行い、集約し、その内容を発表し、全体討論を行っている。その検討結果は、富山大学薬学部・大学院医学薬学教育部薬学系部会FD報告書としてまとめられ、教育改善に役立てられている。また、新任教員として必要な基礎知識や学生指導のための基礎知識を身につけると共に、富山大学の現状や取組み等について理解を深めることを目的として、「富山大学新任教員研修」を実施している。

全学FD・教育評価専門会議では、毎年、全学授業評価アンケートを作成し、薬学部では、薬学部独自項目を付加した上で、授業評価アンケートを実施している。アンケートの

結果は、学生からの自由記載も含めて各教員に通知され、学内電子掲示板でも公開されている。アンケート結果に基づく授業の改善については、個々の教員から授業改善案の提出は求めているが、薬学部FDの討論テーマとして取り上げるなど、授業改善に努めている。

薬学部のある杉谷キャンパスの医薬系事務部には医薬系総務課、経理・調達課、医薬系学務課および研究協力課が置かれ、薬学部、医学部等の事務を担当している。医薬系事務部には、62名の事務系職員、30名の技術系職員に加え、非常勤職員が所属し、担当事務ごとに薬学部のみを担当する職員（非常勤職員を含め5名）および他学部等と併せて担当する職員ならびにこれを補佐する事務補佐員等が配置され、薬学部の教育研究活動を支援している。

薬学部附属薬用植物園に3名の技術職員を配置し、薬用植物の管理、研究上の補助および学生実習の円滑な遂行の補助を行っている。また、杉谷キャンパスに教育研究支援施設である生命科学先端研究支援ユニットを置き、動物実験、分子・構造解析、ゲノム機能解析および放射線生物解析に関する教育、技術指導、研究開発を行っている。また、教育上および研究上の職務を補助するため、大学院生をRAやTAとして配置している（基礎資料8）。

薬学部教授会、大学院医学薬学教育部薬学系部会、大学院医学薬学研究部薬学系教授部会人事教授会、薬学部教務委員会、薬学部入学試験委員会、薬学部附属薬用植物園運営委員会等には、事務職員が陪席し、事務職の立場からの状況の説明や意見を述べると共に、会議内容の記録を担当しており、その他の学部委員会にも事務職員が必要に応じて参加している。また、薬学部自己点検・評価委員会の構成員として事務職員も参画し、教員と積極的に意見交換を行うなど、教育研究活動を円滑に実施するため、教員と職員が連携し資質の向上を図っている。

1.1 学習環境

本中項目は、適合水準に達している。

富山大学薬学部1年次生が講義を受講する五福キャンパスの共通教育棟には定員が10名から374名までの講義室が合計35室整備され、一部の教室の机は可動式でレイアウトの変更も容易であり、参加型学習や少人数教育を含めた多様な教養教育を行う上で適切な規模および数の教室が整備されている。専門教育の場である杉谷キャンパスでは、講義実習棟には少人数での講義に適した40名および60名収容の講義室計4室のほか、薬学部生1学

年全員を収容可能な定員120名の講義室が7室あり、さらに薬学部、医学部合同での講義に利用可能な372名収容の大講義室を整備し、履修者数に応じて適切な教室を用い講義を行っている（基礎資料12-1）。また講義実習棟に隣接する医薬イノベーションセンターの大講義室も300名収容可能な規模であり、講義の他、講演会などにも利用している。少人数グループでの講義には医薬イノベーションセンターおよび薬学部研究棟Ⅱ等に多数整備されたゼミ室およびセミナー室を適宜活用している（基礎資料12-1）。

1年次に開講する実験科目（化学、生物学および物理学実験）、ならびに2年次前期から3年次後期にかけて実施する基礎薬学実習（化学系、生物系、物理系および医療系実習）は主に杉谷キャンパス講義実習棟の実習室（化学系、生物系および物理系実習室）にて実施し、いずれの実習室も薬学部生全員を収容できる規模であり（基礎資料12-1）、実習施設の規模と設備は適切である。

実務実習事前学習である「臨床前実習」（4年次後期）を円滑に行うため、適切な規模の実務実習室（調剤系実験室 [123㎡]、TDM実験室 [100㎡]、模擬無菌室 [22㎡]、模擬病室 [45㎡] および共通室 [45㎡]）を薬学部研究棟Ⅱの3階部分に整備している。

薬学科の学生は創薬科学科の学生と共に卒業研究を行っているが、薬学科学生の卒業研究の遂行には十分なスペースを確保している（基礎資料11, 12-2）。また、動物実験施設、アイソトープ実験施設、遺伝子実験施設および分子・構造解析施設が整備されており、学生は各施設の設備機器を適宜活用できる。したがって、卒業研究の遂行に相応しい施設・設備は適切に整備されている。

五福キャンパス、杉谷キャンパスにそれぞれ中央図書館、医薬学図書館があり、座席数、図書および学習資料、電子ジャーナルの整備は十分である。五福キャンパス中央図書館内には、ラーニングcommonsとして1階に「リフレッシュ・コミュニケーションゾーン」、2階にグループでの協働学習や無線LANを使った学習を行える「アクティブ・ラーニングゾーン」、プロジェクター・スクリーンと可動式の机と椅子が用意された「プレゼンテーションゾーン」がそれぞれ設置されている（基礎資料13）。杉谷キャンパス医薬学図書館においては、閲覧座席に加え2階に2部屋のグループ学習室が備えられており、それぞれ24名、12名程度での利用が可能である。薬学科学生が利用可能な医薬学図書館外の自習室として、医・薬学部研究棟5階、6階、7階のエレベーターホール近くのスペースをパーティションで仕切ったセミナー室が3か所設けられている。

五福キャンパス中央図書館においては、授業期・試験期とも平日はもとより週末も開館しており、十分な利用時間が確保されている。また、杉谷キャンパスの医薬学図書館は、

通常開館の他「特別利用」として学生証を図書館入口のリーダーに認識させることによってゲートが開錠されるよう設計されており、24時間にわたって施設を利用することができる。医薬学図書館には16台の防犯カメラの設置や緊急時の対応についての体制も構築され、特別利用時も含めた安全管理体制が整っている。

1.2 社会との連携

本中項目は、適合水準に達している。

医療・創薬に関連する最新の研究と情報を紹介する『フォーラム富山「創薬」』に参画し、平成30年度には「第47回：漢方方剤の研究から創薬へ」および「第48回：富山地域創薬支援ネットワーク構築に向けて」とのテーマでコーディネーターや座長、講演者として薬学部の教職員を派遣している。また、民間企業や研究機関、医療機関、地方自治体との共同研究（18件）、受託事業（8件）を実施しており、医療および薬学の発展に努めている。

薬学科教員のうち、1名は病院・薬局実務実習北陸地区調整機構における委員長を務め、また、認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 北陸におけるタスクフォースとして参加している教員がおり、薬剤師の資質向上に貢献している。行政機関との連携については、富山県薬事審議会や富山県薬局・薬剤師健康創造拠点化推進協議会において薬学科教員が委員に就任し、薬学の発展に寄与している。なお、地域の薬剤師会、病院薬剤師会、医師会などの関係団体との連携については十分とは言い難い。

卒後研修プログラムとして、がんプロフェッショナル養成プラン「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」事業の一環で、北信4県の薬剤師ならびに薬学専攻大学院生を対象に『高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（大学院生本科・インテンシブ）演習』を実施し、平成30年度は学生3名を含めて9名の参加者があった。しかし、このプログラムは、専門薬剤師養成のためのものであって、薬剤師の資質向上を図るための生涯学習プログラムではない。また、このプログラムは平成29年度からスタートしたものであり、これまでの薬剤師の参加は10名に満たない。以上より、薬剤師の資質向上を図る生涯学習プログラムの提供に努めることが望ましい。

地域住民に対する公開講座が行われており、平成30年度は『楽しい薬用植物の育て方・殖やし方』を開催した。また、『薬学部附属薬用植物園一般公開』を春季および秋季に実施し、中高生対象の『作ってみよう！和漢薬～製剤実習から学ぶ薬のカタチと使い方～』を開催した。

地域における保健衛生の保持・向上のために、大学の地域連携推進機構生涯学習部門が企画する「富山大学サテライト講座」において『くすりの適切な使用方法とは？～最低でも知っておきたいことから最新研究の話題まで～』と題した講演、また、富山大学免許状更新講習として、各種学校の教諭を対象に『くすりの創り方』と題した講演を実施した。一方、「まちなかセミナー」については平成27年度以降、薬学関連内容の実施はない。

富山大学薬学部は英文によるホームページを開設し、世界へ大学の情報を発信しているが、9研究室が英文ホームページを作成しているものの、全研究室ではないので、全ての研究室で英文ホームページを開設していくことが望ましい。

富山大学薬学部は15大学（10か国）と部局（大学院医学薬学研究部）として交流協定を締結している。また、拠点機関として、日本学術振興会 研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）である『伝統・天然薬物利用を基盤とする富山・アジア・アフリカ創薬研究ネットワーク（TAA-PharmNet）の構築』事業を展開し、ハサヌディン大学（インドネシア）、山東大学（中国）、慶熙大学校（韓国）、カイロ大学（エジプト）との共同研究を推進している。平成30年度は『第3回 富山・アジア・アフリカ創薬研究シンポジウム（3rd TAA-Pharm Symposium）』を富山にて開催し、国際交流活性化の活動が行われている。

富山大学では「富山大学国際機構」が設立され、留学派遣や留学受け入れ、語学学習支援などが実施されている。薬学部学生が、台北医学大学での研修に平成29年度に1名、南カリフォルニア大学での研修に平成29年度に2名、平成30年度に1名参加している。また、海外からは平成29年度にはダブリン大学（アイルランド）から学生1名、南カリフォルニア大学から学生2名、平成30年度には南カリフォルニア大学から学生2名が富山大学薬学部での研修に参加した。

教職員の海外研修に関しては、富山大学杉谷（医薬系）キャンパス国際交流基金を使用した2週間以内の教職員海外派遣（短期）援助事業が存在する。また、文部科学省『科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」』の支援のもと、女性研究者の短期留学助成制度が整備されている。最近5年間（平成26年度～30年度）では、教員2名が長期、2名は短期（計4名）の海外留学・研修を行った。海外研修を行う教員の数が少ないので、教員の海外研修、長期留学のさらなる活性化が望ましい。

1.3 自己点検・評価

本中項目は、おおむね適合水準に達しているが、薬学部自己点検・評価委員会の機能・

体制において懸念される点が認められる。

「国立大学法人富山大学大学評価規則」第8条に定める部局独自の自己点検・評価を実施するため、「富山大学薬学部自己点検・評価委員会」を平成29年9月に設置し、6年制薬学教育プログラムを含めた薬学部の教育研究活動の定期的な点検と改善、および認証評価などの外部評価対応を行っている。

委員会構成員は、1) 薬学部副学部長、2) 薬学部教務委員会委員、3) 医薬系総務課長、4) 医薬系学務課長、5) その他学部長が必要と認めた者、であり、副学部長が委員長を務める。なお、平成30年度現在、本委員会構成員として外部委員は含まれていない。

薬学科としての自己点検・評価実施方針では、1) 前年度の卒業時アンケートの集計データおよび修学状況データの分析（毎年実施）、2) 学生の就職先への卒業後アンケートの集計データ分析（3年に1回程度実施）、3) 薬学教育評価機構が定める評価項目から抽出した課題について点検評価（毎年実施）、を定め、1) と2) ではディプロマ・ポリシー達成度など3ポリシーの妥当性の検証、3) では第三者評価に対応すると共に薬学教育の内部質保証に繋げることを目的としている。

平成29年度の自己点検・評価として、1) の各種データ分析、および3) としては「大学独自の薬学専門教育（アドバンスト教育）の実施状況」を取り上げ、薬学部教務委員会の協力の下、薬学部自己点検・評価委員会が主体となって点検・評価を実施した。その評価内容等については、「平成29年度自己点検・評価報告書」として取り纏め、薬学部教授会での承認を得た後、薬学部ホームページ（薬学部の教育>情報公開）にて公表している。

薬学部自己点検・評価委員会の評価結果は、薬学部に関連する各種委員会との連携により、適切に教育研究活動に反映させる体制がとられている。毎年8月頃に実施されている薬学部FDでは、薬学教育の改善と質の向上を目的として、喫緊の検討課題を設定して討論を行っており、自己点検・評価で問題点となった内容についても、直近のFDにて取り上げられる仕組みを構築している。

平成29年度には「大学独自の薬学専門教育（アドバンスト教育）の実施状況」を点検・評価し、選択科目におけるアドバンスト教育の内容の見直しと改善を行った。その結果、薬学科専門教育におけるアドバンスト教育項目の占める割合はそれまでの19.43%から24.58%まで改善され、平成30年4月7日に開催された「薬学部自己点検・評価に関する全体会議」にて、その内容が確認された。この改善内容に従って、平成30年度の講義・実習は実施された。

また、平成30年度の自己点検・評価では、「医療人教育の基本的内容に関する教育内容と実施状況」を取り上げた。その結果、「医療人教育の基本的内容」のうち、2年次および3年次前学期において、ヒューマニズム教育・医療倫理教育および医療安全教育のカリキュラムが希薄になっていることについて指摘がなされ、今後改善に向けて学部全体で議論を進めていく方向性を確認している。

しかし、富山大学薬学部自己点検・評価委員会は平成29年9月の設置であり、内部質保証に関わるすべての項目の自己点検・評価はまだ行われていないため、今後、薬学部自己点検・評価委員会が主体性をもって、6年制薬学教育プログラムを定期的に自己点検・評価し、これを継続してP D C Aサイクルを機能させることが必要である。

IV. 大学への提言

1) 長所

1. 「総合薬学演習」は、医薬品シーズ探索から、基礎薬学、非臨床の各研究事項を理解し、臨床応用に必要な臨床薬学的な知識を総括して学習する科目であり、評価できる。
(4. 薬学専門教育の内容)
2. 教育研究上の目的（人材養成等の目的）にある和漢薬や東西医薬をキーワードとした独自科目である「和漢医薬学入門」や「東洋医学概論」「東西医薬学」が開講されていることは評価できる。(4. 薬学専門教育の内容)

2) 助言

1. ヒューマニズム教育・医療倫理教育、コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための教育としている科目の中には、現状では不適當な科目があるため、これらの教育が十分に行われることが望ましい。(3. 医療人教育の基本的内容)
2. 医療現場で必要とされる英語を身につける科目として「薬学英語Ⅰ」および「薬学英語Ⅱ」が実施されているが、これらの科目は科学英語力の醸成とTOEIC演習を主としており、医療現場で必要とされる英語を身につける科目とは言い難いので、改善が望ましい。(3. 医療人教育の基本的内容)
3. がん薬物療法認定薬剤師を目指す研修会には学生の参加を認めているが、この研修会は薬剤師の資質向上を図るための生涯学習プログラムではなく、一般学生の参加はな

- いため、学生が参加可能な生涯学習プログラムを作ることが望ましい。（３．医療人教育の基本的内容）
4. 生涯学習の意欲醸成に該当する科目は1年次と4年次にしか配置されておらず、体系的に行われているとは言い難いので、改善することが望ましい。（３．医療人教育の基本的内容）
 5. 「自己点検・評価書」に示された実務実習実施体制図を実習施設や学生、関係機関へ周知することが望ましい。（５．実務実習）
 6. 病院・薬局実務実習の総合的な学習成果が、適切な指標に基づいて評価されることが望ましい。（５．実務実習）
 7. 体系的な問題解決能力醸成に向けた教育のために、高学年次に配置している問題解決型学習を含む選択科目の履修者を増やすことが望ましい。（６．問題解決能力の醸成のための教育）
 8. 入学者の半数以上は一般入試（前期日程）で合格しているが、一般入試（前期日程）はセンター試験と富山大学の個別学力検査のみで合否を判定しているため、一般入試（前期日程）においても医療人としての適性を評価することが望ましい。（７．学生の受入）
 9. 教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を測定するための指標の設定、ならびにそれに基づいた総合的な学習成果の測定が行われていないので、改善が望ましい。（８．成績評価・進級・学士課程修了認定）
 10. 実験中の事故や災害の発生時における防災対応について記されている安全ノートの内容について、教員および配属学生への周知徹底を図ることが望ましい。（９．学生の支援）
 11. 実務系研究室に所属し、実務実習事前学習と卒業研究を担当する教員が薬局実習の指導薬剤師も担当している状況があるなど、実務系研究室に所属する教員の講義、実習の担当時間が多くなっているため、負担の軽減が望ましい。（１０．教員組織・職員組織）
 12. がんプロフェッショナル養成プランの一環として実施されているプログラムは、専門薬剤師養成のためのものであって、薬剤師の資質向上を図るための生涯学習プログラムではないので、生涯学習プログラムの提供に努めることが望ましい。（１２．社会との連携）

13. 全ての研究室で英文ホームページを開設していくことが望ましい。(12. 社会との連携)
14. 教員の海外研修は2、3ヶ月の短期間の場合も含め、最近5年間で4名と少ないので、教員の海外研修、長期留学のさらなる活性化が望ましい。(12. 社会との連携)
15. 富山大学薬学部自己点検・評価委員会の委員として、外部委員の選任が望ましい。(13. 自己点検・評価)

3) 改善すべき点

1. ヒューマニズム教育・医療倫理教育が体系的に行われていないので、改善が必要である。(3. 医療人教育の基本的内容)
2. ヒューマニズム教育・医療倫理教育において、各科目の目標到達度を評価するための指標を設定し、それに基づいて評価することが必要である。(3. 医療人教育の基本的内容)
3. ヒューマニズム教育・医療倫理教育において、総合的な目標達成度を評価するための指標を設定し、それに基づいて評価することが必要である。(3. 医療人教育の基本的内容)
4. コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための教育において、各科目の目標到達度を評価するための指標を設定し、それに基づいて評価することが必要である。(3. 医療人教育の基本的内容)
5. コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための教育において、総合的な目標達成度を評価するための指標を設定し、それに基づいて評価することが必要である。(3. 医療人教育の基本的内容)
6. 旧カリキュラムにおいては、一部のSBOが選択科目または自由科目のみで実施されているので、改善が必要である。(4. 薬学専門教育の内容)
7. 大学独自の科目あるいは科目の一部については、シラバスに独自科目あるいは独自項目の明記を徹底することが必要である。(4. 薬学専門教育の内容)
8. 実務実習事前学習では、これを構成する4科目についての個別の目標到達度評価は行われているが、全体としての総合的な目標達成度評価の指標を設定していないので、改善が必要である。(5. 実務実習)
9. 附属病院で実習を行う学生(約16名)は標準期間よりも3週間長い14週間にわたって病院実習を行っているにもかかわらず、「病院実習」の単位は他の施設で病院実習を行

う学生と同じく、全学生で共通の10単位となっているので、「病院実習」の期間とその単位については、全学生で等しくなるように改善が必要である。(5. 実務実習)

10. 問題解決能力醸成に向けた教育を実施している科目のうち、シラバスに、問題解決型学習であること、また、その内容が記載されていない科目があり、シラバスへの明記が必要である。(6. 問題解決能力の醸成のための教育)
11. 問題解決能力醸成に向けた教育において、関連科目を総合した目標達成度の評価指標の設定ならびにそれに基づく評価が行われていないので、改善が必要である。(6. 問題解決能力の醸成のための教育)
12. 中間試験、期末試験以外に、成績が60点未満の学生を対象にした、学則に規定がない試験が、教員の裁量で行われているので、改善が必要である。(8. 成績評価・進級・学士課程修了認定)
13. 成績評価において、出席状況といった評価指標として相応しくない項目を含んでいる科目があるので、改善が必要である。(8. 成績評価・進級・学士課程修了認定)
14. 複数の項目で成績を評価する場合に配分割合の記載がない科目があるため、改善が必要である。(8. 成績評価・進級・学士課程修了認定)
15. 一部の科目において、60点未満や70点以上であっても成績を可としているなど、「富山大学薬学部規則」第7条の規定に反して、教員の裁量で最終評定が行われていることは不適切なので、改善が必要である。(8. 成績評価・進級・学士課程修了認定)
16. 防災訓練の開催が4年に1度では回数が少ないため、改善が必要である。(9. 学生の支援)
17. 薬学部自己点検・評価委員会が主体性をもって、6年制薬学教育プログラムを定期的に自己点検・評価し、これを継続してPDCAサイクルを機能させることが必要である。(13. 自己点検・評価)

V. 認定評価の結果について

富山大学薬学部（以下、貴学）薬学科は、2017年度第一回全国薬科大学長・薬学部長会議総会において、2019年度に薬学教育評価機構（以下、本機構）による「薬学教育評価」の対象となることが承認されました。これを受けて貴学は、2018年度に本機構の「薬学教育評価 評価基準」（以下、「評価基準」）に基づく6年制薬学教育プログラムの自己点検・評価を実施し、「薬学教育評価申請書」を本機構に提出しました。

I～IVに記載した内容は、貴学が自己点検・評価の結果により作成し本機構に提出した「調書」（「自己点検・評価書」および「基礎資料」）と添付資料に基づいて行った第三者評価（以下、本評価）の結果をまとめたものです。

1) 評価の経過

本評価は、本機構が実施する研修を修了した5名の評価実施員（薬学部の教員4名、現職の薬剤師1名）で構成する評価チームによるピア・レビューを基本にして行いました。

まず、個々の評価実施員が「調書」に基づいて「評価基準」の達成状況を検証して所見を作成し、それらを評価チーム会議で検討して評価チームの所見をとりまとめる書面調査を行いました。評価チームは、書面調査の所見を整理した結果に貴学への質問事項などを加えた「評価チーム報告書案」を作成し、これを貴学に送付して、質問への回答と「評価チーム報告書案」に対する貴学の意見（第1回目のフィードバック）を求めました。

評価チームは、貴学からの回答と追加された資料、並びに「評価チーム報告書案」に対する意見を検討して「評価チーム報告書案」の所見を修正し、その結果を踏まえて訪問調査を実施しました。訪問調査では、書面調査では十分に評価できなかった点を含めて貴学の6年制薬学教育プログラムの状況を確認することを目的に、「訪問時閲覧資料」の閲覧、貴学との意見交換、施設・設備見学と授業参観、並びに学生および若手教員との意見交換を行いました。訪問調査を終えた評価チームは、訪問調査で得た情報と書面調査の所見を総合的に検討し、「評価チーム報告書」を作成して評価委員会に提出しました。

「評価チーム報告書」の提出を受けた評価委員会は、評価チームの主査を含めた拡大評価委員会を開いて、評価チームの判断を尊重しつつ、大学間での「評価結果」の偏りを抑えることを目指して「評価チーム報告書」の内容を検討し、その結果をもとに「評価報告書（評価委員会案）」を作成しました。次いで、評価委員会は「評価報告書（評価委員会案）」を貴学に送付し、事実誤認および誤解を生じる可能性がある表現などに対する「意見申立て」（第2回目のフィードバック）を受けました。

評価委員会は、申立てられた意見を検討し、その結果に基づいて「評価報告書（評価委員会案）」を修正するための拡大評価委員会を開催し、「評価報告書原案」を確定しました。

本機構は「評価報告書原案」を、外部有識者を含む評価の最高意思決定機関である総合評価評議会において慎重に審議し、「評価報告書」を確定しました。

本機構は、「評価報告書」を貴学に送付するとともに社会に公表し、文部科学省および厚生労働省に報告します。

なお、評価の具体的な経過は「4）評価のスケジュール」に示します。

2) 「評価結果」の構成

「評価結果」は、「Ⅰ．総合判定の結果」、「Ⅱ．総評」、「Ⅲ．『中項目』ごとの概評」、「Ⅳ．大学への提言」で構成されており、それらの意味は以下の通りとなっています。

「Ⅰ．総合判定の結果」には、貴学の薬学教育プログラムが総合的に本機構の「評価基準」に適合しているか否かを記しています。

「Ⅱ．総評」には、「Ⅰ．総合判定の結果」の根拠となった貴学の薬学教育プログラムの本機構の「評価基準」に対する達成状況を簡潔に記しています。

「Ⅲ．『中項目』ごとの概評」には、「評価基準」を構成する13の『中項目』ごとに、それぞれの『中項目』に含まれる【基準】・【観点】に対する充足状況の概要を記しています。

「Ⅳ．大学への提言」は、「評価結果」に関する本機構からの特記事項で、「1）長所」、「2）助言」、「3）改善すべき点」に分かれています。

「1）長所」は、貴学の特色となる優れた制度・システムであり、教育研究上の実績が他大学の模範となると期待されるものです。

「2）助言」は、「評価基準」を達成する最低要件は満たしているが、目標を達成するためには改善が望まれることを示すものです。「助言」の内容に対する改善の実施は貴学の判断に委ねますが、個々の「助言」への対応状況についての報告書の提出が必要です。

「3）改善すべき点」は、「評価基準」が求める最低要件を満たしていないと判断された問題点で、貴学に対して「評価基準」を達成するための改善を義務づけるものです。「改善すべき点」については、早急に改善に取り組み、「評価基準」を達成したことを示す成果を「提言に対する改善報告書」として所定の期限内に本機構に提出することが必要です。

本「評価結果」は、貴学の「自己点検・評価書」および「基礎資料」に記載された、評価対象年度である2018年度における薬学教育プログラムを対象にしたものであるため、現時点ではすでに改善されているものが提言の指摘対象となっている場合があります。な

お、別途提出されている「調書」の誤字、脱字、数値の誤記などに関する「正誤表」は、本「評価報告書」、「調書」を本機構のホームページに公表する際に、合わせて公表します。

3) 提出資料一覧

(調書)

自己点検・評価書

薬学教育評価 基礎資料

(根拠資料)

- ◇ 薬学部パンフレット 2019 (富山大学薬学部 2019 年度学部案内)
- ◇ 学生便覧 (富山大学キャンパスガイド 2013)
- ◇ 学生便覧 (富山大学キャンパスガイド 2018)
- ◇ 履修要綱 (平成 30(2018)年度 教養教育ガイド)
- ◇ 履修要綱 (2013 医学部・薬学部履修の手引き)
- ◇ 履修要綱 (2018 医学部・薬学部履修の手引き)
- ◇ 科目選択指導資料 (学年別ガイダンス資料)
- ◇ ヘルン・システム利用の手引き 平成 30(2018)年度
- ◇ シラバス 2014
- ◇ シラバス (平成 30 年度 薬学部薬学科 教養教育科目)
- ◇ シラバス (平成 30 年度 薬学部薬学科 専門教育科目)
- ◇ 平成 30 年度 薬学部授業時間割表 (実習日程と学年暦カレンダー含む)
- ◇ 平成 30 年度 教養教育授業時間割表
- ◇ 学生募集要項 (一般入試)
- ◇ 学生募集要項 (特別入試)
- ◇ 国立大学法人富山大学概要 2018
- ◇ 薬学教育モデル・コアカリキュラム (平成 25 年度改訂版) (P16-17)
(薬剤師として求められる基本的な資質)
- ◇ 日本薬剤師会ホームページ (日本薬剤師会の提言)
(<https://www.nichiyaku.or.jp/about/summary/teigen.html>)
- ◇ 富山大学ホームページ (大学紹介)
(<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/index.html>)

- ◇ 富山大学薬学部ホームページ（人材育成の目的と三つのポリシー：ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）
（<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/faculty/policy/>）
- ◇ 新入生オリエンテーション配付物一覧（平成 30 年度）
- ◇ 平成 30 年度富山大学薬学部・大学院医学薬学教育部薬学系部会 FD 配付資料
- ◇ 富山大学薬学部自己点検・評価委員会内規
- ◇ 平成 28 年度第 7 回薬学部教務委員会資料 13, p90-96
- ◇ 学年別ガイダンス配付資料一覧
- ◇ 富山大学ホームページ（教育方針 3 つのポリシー：アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）
（<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/3policy/policy/faculty.html>）
- ◇ 「基礎薬科学」授業概要
- ◇ 薬学部カリキュラム改訂内容
- ◇ 薬学部薬学科専門教育科目新旧対照表
- ◇ 2017 年度「医学部・薬学部履修の手引き」, p87-88
- ◇ 2017 年度「医学部・薬学部履修の手引き」, p89-90
- ◇ 平成 30 年度薬学英语：日程・クラス分け表
- ◇ 和漢薬コースチラシ
- ◇ 平成 30 年度薬学科・創薬科学科 3, 4 年生, 薬学科 6 年生 後学期日程表
- ◇ 平成 30 年度「薬学科卒業論文」の作成について
- ◇ 平成 30 年度薬学部日程表（10-3 月）
- ◇ 第 104 回薬剤師国家試験対策日程表
- ◇ 富山大学(杉谷キャンパス) 医療人教育室に関する内規
- ◇ 富山大学医療人教育室 2018 年度報告書
- ◇ 富山大学(杉谷キャンパス) 医療人教育室室員
- ◇ 医療学入門介護体験実習手引き（平成 30 年度版）
- ◇ 新入生医療学研修スケジュール
- ◇ 平成 30 年度医療学入門における心肺蘇生法講習要領
- ◇ 医療学入門（講義資料（プライバシーの観点から資料は開示されたもののみ））
- ◇ 薬学概論（早期体験学習（病院・薬局見学））
- ◇ 薬学概論（研究室訪問・薬学部なんでも Q&A）

- ◇ 平成 30 年度 総合薬学演習（実施要項、スケジュール）
- ◇ 平成 30 年度 総合薬学演習（発表資料）
- ◇ 総合薬学演習（プレゼンテーション評価表）
- ◇ 海外薬学演習（南カリフォルニア大学臨床薬学研修資料）
- ◇ 海外薬学演習（南カリフォルニア大学臨床薬学研修スケジュール）
- ◇ 災害救援ボランティア論 シラバス（Web 版）
- ◇ 平成 30 年度 病院薬学（病院見学実施・発表会資料）
- ◇ 平成 30 年度 薬学経済（学生発表会資料）
- ◇ 平成 30 年度薬学部 3 年次生「専門英語 I」研究室割振表
- ◇ 基礎資料 3-1 において必修科目に含まれていない SB0s
- ◇ コアカリ教育・独自教育実施状況（専門教育）
- ◇ バイタルサイン実習用シミュレーター（フィシコ）及び臨床前実習 I 実習風景
- ◇ 静脈注射等実習等のシミュレーター及び実習風景
- ◇ 平成 30 年度前学期 期末試験・補講日程
- ◇ 平成 30 年度臨床前実習 I スケジュール
- ◇ 平成 30 年度臨床前実習 II スケジュール
- ◇ 臨床前実習 I ルーブリック評価表
- ◇ 臨床前実習 II ルーブリック評価表
- ◇ 薬学研究棟 II 3 階臨床前実習用フロア平面図
- ◇ 調剤系実習室及び備品の写真
- ◇ クリーンベンチ等と TDM 実験室の備品など
- ◇ 備品と PC 共通室で PC を置いた写真など
- ◇ 今日の診療
 - (<http://www.sugitani.u-toyama.ac.jp/library/index.html>)
 - (<https://top.islib.jp/bcs/li/>)
 - (https://top.islib.jp/bcs/ct/k_shinryo/#/searchkeyword)
- ◇ 一般社団法人日本医療薬学会認定薬剤師・指導薬剤師委嘱者名簿
- ◇ 平成 30 年度 非常勤講師（学外）授業計画（抜粋）
- ◇ 臨床実習 I における日誌の様式および記載要項
- ◇ 薬学部薬学科生の実務実習関連科目履修に関する取扱い
- ◇ 薬学共用試験結果

(http://www.pha.u-toyama.ac.jp/faculty/pdf/public/h30cbt_osce.pdf)

- ◇ 富山大学薬学部ホームページ（薬学部の教育：情報公開）
(<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/faculty/>)
- ◇ 2018（平成30）年度薬学共用試験 CBT 実施マニュアル
- ◇ 平成30年度薬学共用試験 CBT 本試験実施打ち合わせメモ
- ◇ 2018年度 CBT 本試験学生講習会資料
- ◇ 平成30年度富山大学薬学部 OSCE 実施マニュアル
- ◇ 富山大学薬学部 C B T 実行委員会内規
- ◇ 富山大学薬学部 O S C E 実行委員会内規
- ◇ 富山大学薬学部 O S C E 実行委員会の組織に関する申合せ
- ◇ 平成30年度 CBT 実行委員会委員名簿
- ◇ 平成30年度薬学部 OSCE 実行委員メンバー
- ◇ 平成30年度薬学共用試験 CBT 体験試験実施打ち合わせメモ
- ◇ 平成30年度富山大学薬学共用試験 OSCE 評価者養成伝達講習会資料
- ◇ 平成30年度 OSCE 評価者講習会日程一覧
- ◇ 平成30年度第1回 OSCE 実行委員会議事次第及び実施体制
- ◇ OSCE 外部評価者依頼及び他大学評価者の派遣
- ◇ 情報処理実習室（大）と（小）の平面図
- ◇ 平成30年度富山大学 OSCE 模擬患者講習会日程一覧
- ◇ 各種委員会の一覧表及び主要な委員会の関係図
- ◇ 富山大学薬学部実務実習委員会内規
- ◇ 平成30年度実務実習配置一覧（研究室ごとに表示）
- ◇ 富山大学薬学部病院実習運営協議会内規
- ◇ 富山大学薬学部薬局実習運営協議会内規
- ◇ 平成30年度定期健康診断実施の学生へのアナウンス
- ◇ 平成30年度保健管理センター（杉谷支所）感染対策スケジュール
- ◇ 医療関係者のためのワクチンガイドライン
- ◇ 個人情報ファイル簿
- ◇ 平成30年度実務実習説明会資料（学生向け）
- ◇ 富士ゼロックス社「実務実習指導・管理システム」ログイン画面
- ◇ 平成30年度実務実習病院実習教員割振り一覧表

- ◇ 平成 28 年度薬学部 FD(第 2 回)-改訂コアカリでの実務実習について-の実施要項
- ◇ 新実務実習説明会の実施要項
- ◇ 平成 28 年度 FD 出席状況
- ◇ 平成 30 年度 (3 年次生) 卒業研究学生配属数一覧
- ◇ 平成 31 年度実務実習附属病院分日程および実務実習先割り振り先の決め方
- ◇ 平成 30 年度実務実習 (薬学科 5 年生) 薬剤部及び附属病院での実習日程について
- ◇ 平成 31 年度実務実習施設確定までの日程と施設確定後の連絡体制について
- ◇ 富山県実務実習受入れ可能薬局一覧
- ◇ 富山県実務実習受入れ可能病院一覧
- ◇ 平成 31 年度実務実習生実習配置にむけての調査一覧 (個人情報なし)
- ◇ 平成 30 年度 実務実習 薬局実習基本事項
- ◇ 富山大学における災害等による休講措置に関する取扱要項
- ◇ 薬剤部セントラル実習スケジュール
- ◇ 臨床薬剤学研究室 病棟実習スケジュール
- ◇ 漢方診断学分野 病棟実習スケジュール
- ◇ 病態制御薬理学研究室 病棟実習スケジュール
- ◇ 医薬品安全性学研究室 病棟実習スケジュール
- ◇ 新実務実習・薬局薬剤師への説明会での説明資料 (富山大学薬学部における実務実習受入れ薬局選定基準)
- ◇ 病院と薬局の典型例の実習スケジュール (実務実習指導・管理システム)
- ◇ 実務実習 (病院) の教員訪問について
- ◇ 病院・薬局訪問記録
- ◇ 平成 30 年度 実務実習 病院実習基本事項
- ◇ 病院実習評価表
- ◇ 薬局実習評価表 (実務実習 (薬局) 報告書)
- ◇ 富山大学附属病院での病院実習前の説明会資料
- ◇ 富山大学薬学部 病院・薬局における実習の誠実な履行、個人情報の保護、病院・薬局の法人機密情報の保護に関する説明文書
- ◇ 富山大学薬学部 病院・薬局における実習の誠実な履行、個人情報の保護、病院・薬局の法人機密情報の保護に関する誓約書
- ◇ 実務実習に関する協定書

- ◇ 病院実習評価表（実務実習（病院）評価表）（新カリ用）
- ◇ 薬局実習評価表（実務実習（薬局）報告及び評価書）（新カリ用）
- ◇ 富山大学薬学部平成 30 年度実習実習（病院）発表会実施要綱開催概要
- ◇ 平成 29 年度富山大学薬学部薬局実務実習（薬局）発表会実施要項開催概要
- ◇ 平成 30 年度第 I, II, III 期実務実習終了後の富山県実習先、教員及び学生からのアンケート
- ◇ 平成 30 年度第 I, II, III 期実務実習に関わる報告書（全国版）
- ◇ 平成 30 年度 3 年次生卒業研究学生配属一覧表
- ◇ 平成 30 年度学年暦表薬学部
- ◇ 富山大学薬学部薬学科卒業論文作成方針
- ◇ 富山大学薬学部薬学科卒業論文作成要領
- ◇ 富山大学薬学部薬学科生の卒業研究の評価について
- ◇ 卒業研究評価表
- ◇ 平成 30 年度「薬学科卒業研究発表会」について
- ◇ 平成 30 年度薬学科 6 年次卒業研究発表会
- ◇ 平成 30 年度卒業研究発表会・ポスター発表会（発表会時配布資料）
- ◇ 平成 30 年度薬学科卒業研究発表会に関わる確認事項
- ◇ 平成 30 年度卒業研究発表会・ポスター発表会に関わる確認事項
- ◇ 問題解決型学習実施状況（専門教育）
- ◇ 化学系実習日程表
- ◇ 平成 28 年度第 7 回教育研究評議会資料 7(抜粋)
- ◇ 平成 29 年度第 3 回教育研究評議会資料 4(抜粋)
- ◇ 平成 22 年度学生募集要項（巻頭頁）
- ◇ 富山大学ホームページ（大学見学会など）
 (<https://www.u-toyama.ac.jp/admission/session/index.html>)
 (<https://www.u-toyama.ac.jp/admission/guidance/index.html>)
- ◇ 富山大学薬学部入学試験委員会内規
- ◇ 富山大学入学試験委員会規則
- ◇ 平成 31 年度監督者説明会開催案内
- ◇ 平成 31 年度入学者選抜個別学力検査実施要項(前期日程等)杉谷キャンパス
- ◇ 平成 31 年度入学者選抜個別学力検査実施要項(後期日程等)杉谷キャンパス

- ◇ 平成 29 年度富山大学薬学部卒業時アンケート
- ◇ 富山大学薬学部卒業者に対する「教育成果」についてのアンケート
- ◇ 富山大学杉谷キャンパス入学試験実施状況（平成 26 年度-平成 30 年度）
- ◇ ヘルン・システム（トップページ）
(https://www.u-toyama.ac.jp/student-staff/hearn_system.html)
- ◇ 平成 30 年度前学期「期末試験・補講」時間割通知文
- ◇ 薬学部における成績評価に対する異議申立制度に関する申合せ
- ◇ 平成 30 年度薬学部ガイダンス実施要領、修学ガイダンス通知文
- ◇ 成績通知書送付鑑(保証人宛)
- ◇ クラス担任連絡会資料（留年生面談に関する打合せ）
- ◇ クラス担任連絡会資料（出席状況確認の打合せ）
- ◇ 学籍異動状況分析・検討結果概要（抜粋）
- ◇ 退学・休学許可願様式
- ◇ 学生相談室ホームページ
(<https://www.u-toyama.ac.jp/campuslife/consultation/index.html>)
- ◇ 平成 30 年度医学部・薬学部新入生オリエンテーション日程
- ◇ 平成 30 年度富山大学薬学部薬局実務実習の説明会資料
- ◇ 薬学科 5 年次生実務実習（病院）の説明会案内
- ◇ 平成 30 年度クラス担任
- ◇ 富山大学ホームページ（経済的支援制度一覧）
(<https://www.u-toyama.ac.jp/campuslife/support/financial-aid.html>)
- 富山大学ホームページ（授業料・入学料免除）
(<https://www.u-toyama.ac.jp/campuslife/support/exemption.html>)
- 富山大学ホームページ（東日本大震災による入学料免除）
(<https://www.u-toyama.ac.jp/campuslife/support/pdf/H30ex-explanation3.pdf>)
- 富山大学ホームページ（風水害等の災害による授業料免除）
(<https://www.u-toyama.ac.jp/campuslife/support/pdf/H30ex-explanation6.pdf>)
- 富山大学ホームページ（奨学金制度）
(<https://www.u-toyama.ac.jp/campuslife/support/scholarship.html>)
- ◇ 富山大学ホームページ（学生寮、アパート等）
(<https://www.u-toyama.ac.jp/campuslife/support/dormitory.html>)

- ◇ 富山大学薬学部ホームページ（学生後援会）
[（http://www.pha.u-toyama.ac.jp/koenkai/index-j.html）](http://www.pha.u-toyama.ac.jp/koenkai/index-j.html)
 富山大学薬学部ホームページ（奨学資金援助）
[（http://www.pha.u-toyama.ac.jp/koenkai/syougaku.html）](http://www.pha.u-toyama.ac.jp/koenkai/syougaku.html)
- ◇ 富山大学保健管理センターホームページ（トップページ）
[（http://www3.u-toyama.ac.jp/health/index.html）](http://www3.u-toyama.ac.jp/health/index.html)
 富山大学ホームページ（アクセシビリティ・コミュニケーション支援室）
[（http://www3.u-toyama.ac.jp/support/communication/index.html）](http://www3.u-toyama.ac.jp/support/communication/index.html)
- ◇ 平成30年度定期健康診断の結果報告等
- ◇ 国立大学法人富山大学ハラスメントの防止等に関する規則
- ◇ 国立大学法人富山大学ハラスメントの防止・対策に関する指針
- ◇ 富山大学学内限定ウェブページ（ハラスメントの防止について）
[（http://int.u-toyama.ac.jp/for/staff/harassment.html）](http://int.u-toyama.ac.jp/for/staff/harassment.html)
- ◇ 2018 指導教員に求められる役割とは？
- ◇ 富山大学ホームページ（障害等のある入学志願者の事前相談）
[（https://www.u-toyama.ac.jp/admission/consultation/index.html）](https://www.u-toyama.ac.jp/admission/consultation/index.html)
- ◇ 富山大学アクセシビリティ・マップ（杉谷キャンパス）
- ◇ 富山大学学生支援センターアクセシビリティ・コミュニケーション支援室トータルコミュニケーション支援部門
- ◇ 富山大学学生支援センターアクセシビリティ・コミュニケーション支援室身体障害学生支援部門
- ◇ ・富山大学教育・学生支援機構就職・キャリア支援センター会議内規
 ・平成30年度就職指導担当者一覧
[（https://www.u-toyama.ac.jp/career/assigned.html）](https://www.u-toyama.ac.jp/career/assigned.html)
- ◇ 富山大学職業紹介業務運営規則
- ◇ 平成30年度杉谷キャンパス 就職ガイダンス日程
- ◇ 就職ガイダンス（就職活動体験談発表会）パンフレット
- ◇ 第3回薬都とやま未来懇談会（チラシ及び資料集）
- ◇ 富山県製薬企業セミナーパンフレット
- ◇ 富山大学杉谷(医薬系) キャンパス学生委員会内規
- ◇ 富山大学教育推進センターホームページ（授業・卒業時アンケート）

- (<http://www3.u-toyama.ac.jp/cei/enquete.html>)
- ◇ 学生による授業評価アンケート（用紙）
 - ◇ 薬学部薬学科平成 29 年度卒業時アンケート（用紙）
 - ◇ 富山大学グループウェア「サイボウズガルーン」（授業評価アンケート結果）
(<https://gwbozsvr.adm.u-toyama.ac.jp/scripts/cbgrn/grn.exe/cabinet/index?hid=1560>)
 - ◇ 学生生活アンケート報告書
 - ◇ 安全ノート
 - ◇ 安全講習スライド（ppt. 資料）
 - ◇ 富山大学環境安全センター（TURIP システム）
(<http://www.erc.u-toyama.ac.jp/management/index.html>)
 - ◇ 学生保険への加入手続きについて(案内)
 - ◇ 国立大学法人富山大学教員選考基準
 - ◇ 国立大学法人富山大学における教員採用・選考についての指針
 - ◇ 富山大学大学院医学薬学研究部（薬学）教員選考内規
 - ◇ 国立大学法人富山大学大学院医学薬学研究部（薬学）教員公募（教授）
 - ◇ 国立大学法人富山大学大学院医学薬学研究部（薬学）教員公募（准教授）
 - ◇ 国立大学法人富山大学教育職員の任期に関する規則
 - ◇ 富山大学大学院医学薬学研究部(薬学系)における教育職員の再任に関する内規
 - ◇ 富山大学大学院医学薬学研究部(薬学系)における教育職員の再任に関する要項
 - ◇ 教員人事プロセス
 - ◇ 国立大学法人富山大学教員採用人事委員会規則
 - ◇ 教員公募用所定様式
 - ◇ 教員選考に係る講演・質疑応答に係る連絡文書
 - ◇ 富山大学研究者総覧 (<http://evaweb.u-toyama.ac.jp/search?m=home&l=ja>)
 - ◇ 平成 30 年度薬学部業績ポイントテーブル・教員業績評価システムマニュアル
 - ◇ 富山大学杉谷（医薬系）キャンパス研究活動一覧
(<http://www.sugitani.u-toyama.ac.jp/library/kenkyu/index.html>)
 - ◇ 富山大学薬学部ホームページ（トップページ）
(<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/>)
 - ◇ 富山大学附属病院薬剤部ホームページ（トップページ）

(<http://www.hosp.u-toyama.ac.jp/guide/medical/medicine.html>)

- ◇ 平成 30 年度当初配分書・傾斜配分（薬学部）
- ◇ 科学研究費の最新動向に関する説明会案内等
- ◇ 平成 30 年度第 2 回全学 FD・教育評価専門会議資料
- ◇ 平成 30 年度教養教育院全学 FD 研修資料
- ◇ 平成 30 年度富山大学新任教員研修実施要項
- ◇ 2018 年度前期授業評価アンケートフィードバックシート
- ◇ 国立大学法人富山大学事務組織規則
- ◇ 五福キャンパス共通教育棟の教室・収容人数
- ◇ 富山大学総合情報基盤センター（無線 LAN 設定情報）

(<http://www.itc.u-toyama.ac.jp/inside/wireless/index.html>)

- ◇ 動物実験施設「施設利用講習会」
- ◇ アイソトープ実験施設「教育および訓練（新人教育）」
- ◇ 遺伝子実験施設「新規登録者講習会」
- ◇ 分子・構造解析施設「施設利用ガイダンス」
- ◇ 平成 29 年度薬学文献研究会総会資料
- ◇ 「富山大学薬学文献研究会」の 66 年間のあゆみ
(薬学図書館 52(2), 178-180, 2007)
- ◇ 富山大学附属中央図書館（電子情報サービス）
(<http://www.lib.u-toyama.ac.jp/chuo/database.html>)
- ◇ 富山大学附属図書館（データベース一覧）
(<http://www.lib.u-toyama.ac.jp/db/db.html>)
- ◇ 図書館講習会の案内等
- ◇ 富山大学附属中央図書館ガイド
- ◇ 富山大学附属中央図書館利用案内（ラーニングコモンズ）
(http://www.lib.u-toyama.ac.jp/chuo/guide/guide_4.html)
- ◇ 富山大学附属医薬学図書館利用案内
(<http://www.sugitani.u-toyama.ac.jp/library/guide/riyou/index.html>)
- ◇ 富山大学附属中央図書館利用案内（開館時間と休館日）
(http://www.lib.u-toyama.ac.jp/chuo/guide/guide_1.html)
- ◇ フォーラム富山「創薬」ポスター

- ◇ 平成 30 年度共同研究・受託研究等一覧
- ◇ 平成 30 年度「和漢薬・バイオテクノロジー委託研究」概要
- ◇ ・「平成 30 年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ開催一覧」
・「病院・薬局実務実習地区調整機構・支部連絡先」
(http://yaku-kyou.org/?page_id=801)
- ◇ ・「富山県薬事審議会の概要」
(http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1208/kj00013800-001-01.html)
・委員名簿
- ◇ ・富山県薬局・薬剤師健康創造拠点化推進協議会の概要
・委員名簿
- ◇ 「高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース
(大学院生本科・インテンシブ) 演習」の活動報告
(<http://gan-pro.net/news/20181208.html>)
- ◇ ・「TOM' S 薬箱」(<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/toms/column12/index.html>)
・「University of Toyama YAKUGAKU TV」
(<https://www.youtube.com/playlist?list=PL811dJF6ek7LU1yNVLlzSfDnrU9j7dRWX>)
- ◇ 薬学部附属薬用植物園一般公開のポスター
- ◇ 「体験講座 楽しい薬用植物の育て方・殖やし方」の案内
- ◇ ・「作ってみよう！和漢薬～製剤実習から学ぶ薬のカタチと使い方～」の概要
(<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/news/event/20180611.html>)
・ポスター
- ◇ 「オープンキャンパス 楽しい薬学部への一日体験入学」の実施報告
(<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/opencampus/>)
- ◇ 「スーパーサイエンスハイスクール 富山大学薬学実習 くすりの科学」のテキスト
- ◇ 「富山大学サテライト講座」の案内
(<http://www.life.u-toyama.ac.jp/satellite/index.html>)
- ◇ ・「富山大学教員免許状更新講習 くすりの創り方」の案内
・平成 30 年度富山大学教員免許状更新講習 シラバス(講習内容)一覧
- ◇ 「富山大学薬学部の英語版ホームページ」一部抜粋
(<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/en/index.html>)
(<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/en/laboratory/phaphzai/index.html>)

- ◇ 「研究室の英語版ホームページ」 一部抜粋
http://www.pha.u-toyama.ac.jp/pharmtech/index/en_HOME.html
<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/clinphar/index.html>
<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/sboc/index-e.html>
<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/biointerface/research-e.html>
http://www.pha.u-toyama.ac.jp/mediche2/seizou_en/Home.html
<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/yakka/index.html>
http://www.pha.u-toyama.ac.jp/anachem/anachem/English_page.html
<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/cliche2/index-e.html>
<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/phaphzai/en/index-e.html>
- ◇ 「伝統・天然薬物利用を基盤とする富山・アジア・アフリカ創薬研究ネットワーク (TAA-PharmNet) の構築」の概要
<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/taa-pharmnet/index.html>
<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/taa-pharmnet/outline/index.html>
- ◇ 「第3回 富山・アジア・アフリカ創薬研究シンポジウム (3rd TAA-Pharm Symposium)」のポスター
- ◇ 「学生の派遣留学・英語研修プログラム、海外留学を希望する学生の方へ」
<https://www.u-toyama.ac.jp/campuslife/study-abroad/program.html>
<https://www.u-toyama.ac.jp/campuslife/study-abroad/student.html>
- ◇ 「台湾・台北 学生自主学修プログラム」の概要報告
<http://www.phs.osaka-u.ac.jp/koudosendouteki/news/detail.php?id=46>
<http://www.phs.osaka-u.ac.jp/koudosendouteki/overview/>
- ◇ 「USC International Student Summer Program 事後ワークショップ」のプログラム
- ◇ 平成29年度、平成30年度特別聴講学生(薬学部)関係資料
- ◇ 富山大学杉谷(医薬系)キャンパス国際交流基金
平成30年度教職員海外派遣(短期)援助事業実施要項
- ◇ 「教員の海外派遣支援;ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の概要
http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/public_business/H30-gakunaikoubo.html
<http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/news/2018/02/ryugaku-report.html>
- ◇ 教員の海外留学・研修の実績(平成26年度～平成30年度)

- ◇ 国立大学法人富山大学学則
- ◇ 国立大学法人富山大学大学評価規則
- ◇ 国立大学法人富山大学計画・評価委員会内規
- ◇ 平成 29 年度薬学部・大学院医学薬学教育部薬学系部会 F D 実施要項
- ◇ 富山大学薬学部自己点検評価の体制について
- ◇ 富山大学薬学部自己点検・評価委員会委員一覧 (H29)
- ◇ 富山大学薬学部自己点検・評価委員会委員一覧 (H30)
- ◇ 薬学部自己点検・評価委員会による自己点検・評価実施方針
- ◇ H29 年度薬学教育自己点検・評価結果
- ◇ H30 年度自己点検・評価テーマ
- ◇ 自己点検評価書 (自己評価 21)
- ◇ 薬学部現況調査表【教育】(H22～27 年度)
- ◇ 薬学部現況調査表【研究】(H22～27 年度)
- ◇ 外部評価結果【教育】(H28 年度)
- ◇ 外部評価結果【研究】(H28 年度)
- ◇ 薬学部現況調査表【教育】(H17～19 年度)
- ◇ 薬学部現況調査表【研究】(H17～19 年度)
- ◇ 外部評価結果【教育】(H22 年度)
- ◇ 外部評価結果【研究】(H22 年度)
- ◇ 国立大学法人富山大学教員業績評価委員会規則
- ◇ 富山大学大学院医学薬学研究部 (薬学) 教員業績評価委員会内規
- ◇ 教員業績評価の実施について (依頼文)
- ◇ 教員業績評価のフィードバックについて
- ◇ 富山大学薬学部教務委員会内規
- ◇ 薬学部教授会議事要録等
- ◇ 薬学部教務委員会議事要録等
- ◇ 薬学部入学試験委員会議事要録
- ◇ 薬学部自己点検・評価委員会議事要録
- ◇ 人事教授会議事要録
- ◇ 薬学部 CBT 実行委員会議事要録
- ◇ 薬学部実務実習委員会議事要録

- ◇ 薬学部病院実習運営協議会議事要録
- ◇ 薬学部薬局実習運営協議会議事要録
- ◇ 学生用図書選定委員会議事要録
- ◇ 薬学部自己点検・評価に関する全体会議議事要録
- ◇ 入試問題
- ◇ 入試面接実施要綱
- ◇ 入学者を対象とする入試結果一覧表（個人成績を含む）
- ◇ 授業レジュメ・授業で配付した資料・教材 ※(2)
- ◇ 健康診断受診記録
- ◇ 実務実習学生配置一覧
- ◇ 実務実習生の自家用車任意保険証書の写し
- ◇ 富山大学薬学部・学部学生の病院又は薬局実習に関する協定書類
- ◇ 平成 30 年度実務実習生 自動車任意保険有効期限一覧
- ◇ 富山大学薬学部 病院・薬局等における実習の誠実な履行、個人情報の保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書
- ◇ 追・再試験を含む定期試験問題、答案 ※(3)
- ◇ 成績判定に使用した評価点数の分布表（ヒストグラム）※(4)
- ◇ 成績評価の根拠の分かる項目別採点表 ※(5)
- ◇ 卒業認定資料
- ◇ 学生授業評価アンケートの集計結果
- ◇ 富山大学薬学部・大学院医学薬学教育部薬学系部会 F D 報告書
- ◇ 教員による担当科目の授業の自己点検報告書 ※(7)
- ◇ 評価対象年度のすべての卒業生の卒業論文
- ◇ 平成 30 年度薬学概論レポート
- ◇ 早期介護体験実習報告書
- ◇ 臨床前実習Ⅰ 成績根拠資料
- ◇ 臨床前実習Ⅱ 成績根拠資料
- ◇ 臨床前実習Ⅱ 学生全員分のループリックによる評価表成績根拠資料
- ◇ 薬学共用試験 OSCE 平成 30 年度事前調査書類
- ◇ 平成 30 年度 OSCE 課題集 1-4-2 運用メモ
- ◇ 富士ゼロックス「実務実習指導・管理システム」

- ◇ 平成 30 年度実務実習生 実習配置にむけての調査結果一覧
- ◇ 平成 29 年度第 4 回薬学教育協議会北陸支部総会議事録、議事次第、平成 30 年度実習施設の調整結果
- ◇ 平成 30 年度実務実習生駐車場契約及び大学からの支出関係書類
- ◇ 平成 31 年度実務実習生 実習配置にむけての調査一覧（個人情報あり）
- ◇ 富山大学入学試験委員会専門委員会運営内規
- ◇ 富山大学入学者選抜検査の実施に関する申合せ
- ◇ 平成 31 年度入試問題の原稿作成要領
- ◇ 富山大学薬学部一般入試合否判定基準
- ◇ 富山大学薬学部推薦入試合否判定基準
- ◇ 成績通知書
- ◇ 遺伝子組換え生物等使用実験安全管理委員会緊急時連絡通報体制
- ◇ 動物飼養保管施設及び動物実験室緊急時連絡通報体制

4) 評価のスケジュール

貴学の薬学教育プログラム評価を以下のとおり実施しました。

- | | |
|------------|--|
| 2018年2月2日 | 日本薬学会長井記念館会議室において、貴学より担当者2名の出席のもと本評価説明会を実施 |
| 2019年3月11日 | 貴学より調書の草案の提出。機構事務局は内容を確認 |
| 4月8日 | 貴学より「薬学教育評価申請書」の提出。機構は貴学へ受理を通知 |
| 4月9日 | 機構事務局より貴学へ草案の確認終了を通知 |
| 5月8日 | 貴学より評価資料（調書および添付資料）の提出。機構事務局は各評価実施員へ評価資料を送付、評価実施員は評価所見の作成開始 |
| ～6月21日 | 評価実施員はWeb上の薬学教育評価管理システムに各人の評価所見を入力。主査はWeb上の各実施員の評価所見を基に「評価チーム報告書案」の原案を作成 |
| 7月11日 | 評価チーム会議を開催し、Web上で共有した主査の原案を基に「評価チーム報告書案」を作成 |
| 7月29日 | 評価チームは「評価チーム報告書案」を機構事務局へ提出。機構事務局より貴学へ「評価チーム報告書案」を送付 |
| 8月13日 | 貴学より「評価チーム報告書案に対する確認および質問事項への回答」の提出。機構事務局はその回答を評価チームへ通知 |
| 9月10日 | 評価チーム会議を開催し、貴学からの「評価チーム報告書案に対する確認および質問事項への回答」を検討し、訪問時の調査項目を確認 |

- 10月10日・11日 貴学への訪問調査実施
- 10月17日 評価チーム会議を開催し、「評価チーム報告書」を作成
- 12月1・2日 評価委員会（拡大）を開催し、「評価チーム報告書」を検討
- 12月18日 評価委員会（拡大）を開催し、「評価報告書（評価委員会案）」を作成、承認
- 2020年1月6日 機構事務局より貴学へ「評価報告書（評価委員会案）」を送付
- 1月20日 貴学より「意見申立書」を受理
- 2月4日 評価委員会（拡大）を開催し、意見申立てに対する「回答書」および「評価報告書原案」を作成
- 2月7日 機構事務局より貴学へ意見申立てに対する「回答書」を送付
- 2月13日 「評価報告書原案」を総合評価評議会へ提出
- 2月27日 総合評価評議会を開催し、「評価報告書」を決定
- 3月13日 機構事務局より貴学へ「評価報告書」を送付